

2022年11月28日

沖縄電力株式会社

電気料金の値上げ改定について

当社は、低廉な電気を安定的にお客さまへお届けすることを基本的な使命とし、地域社会の成長発展を支えるとともに、小売全面自由化により競争が激化する中、不断の経営効率化によって電気料金の低減に努めてまいりました。

しかしながら、ウクライナ情勢による資源価格の高騰および為替レートの円安の進行により、燃料費や他社購入電力料などの燃料関連費用が急激に増加するとともに、燃料費調整額の算定に用いる平均燃料価格が調整の上限価格を大幅に超過することによって、過去最大の純損失が見込まれるなど、財務体質が急速に悪化しております。2022年度の営業キャッシュフローはマイナスに転じて▲441億円になるとともに、投資キャッシュフローは▲363億円となり、フリーキャッシュフローは▲804億円となる見通しです。有利子負債残高も急激に増加しており、前年度から845億円増となる2,817億円になる見通しとなっています。

こうした状況に対処するため、本年4月に「緊急経営対策委員会」を設置してあらゆる収支対策を検討・実施し、本年11月1日にお知らせしましたとおり規制料金を含む全ての電気料金の値上げ実施に向けて具体的な検討を進めてまいりましたところ、当社最大の使命である電力の安定供給を継続していくためにも、苦渋の決断ではありますが、経営合理化の徹底を前提に2023年4月^{※1}から規制部門における電気料金について値上げ^{※1, ※2}を申請するとともに、自由化部門におきましても同時期から電気料金の見直しをさせていただくことといたしました。

また、離島のお客さま、最終保障供給約款の電気料金についても、規制部門で認可された電気料金等を踏まえた上で見直しさせていただきます。

なお、当社といたしましては、お客さまへの省エネ・節電等のサポートなどを通じて、お客さまのご負担軽減に向けた取り組みを更に充実してまいるとともに、国の総合経済対策等の施策にも積極的に参加・協力してまいります。

この度は、お客さまにご負担をおかけすることとなり、大変心苦しい限りですが、何とぞご理解を賜りますようお願い申し上げます。

※1 規制部門のお客さまの電気料金については、国の審査等を経た後に、経済産業大臣の認可を受けて正式に決定されるため、実際の値上げの実施日や料金については、変更となる可能性があります。

※2 電気料金の一部に含まれる託送料金についても別途認可申請の手続き中のため、料金については託送料金の改定によっても変更となる見込みです。

別紙1：規制料金および自由料金の値上げ影響について

別紙2：電気料金の値上げ改定について（概要説明版）

別紙3：電気料金の値上げ申請について

別紙4：経営効率化の取り組みについて

以上

規制料金および自由料金の値上げ影響について

＜（規制料金）低圧の主なご契約メニューの値上げ影響 ※託送料金変動分は含まない＞

- ・規制部門の低圧の主な契約メニューにおける値上げ影響額は、以下のとおりです。
- ・ご家庭等で、最もご契約口数の多い従量電灯にご加入のお客さまの値上げ影響額について、平均的なモデル（月間使用量 260kWh）で約 39%の値上げとなっております。

契約種別	契約電力	1か月のご使用量	お支払い額		値上げ額 (月額)	値上げ率
			現在 (月額)	値上げ後 (月額)		
従量電灯	—	260kWh	8,847円	12,320円	3,473円	39.3%
低圧電力	8kW	560kWh 夏季：196kWh その他季：364kWh	22,738円	30,219円	7,481円	32.9%

※低圧電力は、1年間のご使用量（夏季・その他季）を1か月当たりとし、力率90%で算定しております。

※現在および値上げ後のお支払い額は、消費税等相当額および2022年度の再生可能エネルギー発電促進賦課金を含みます。

※現在の支払い額には、2022年7月～9月の平均燃料価格に基づく燃料費調整単価(3.98円/kWh)を含みます。

※実際の値上げ実施日・料金等は、経済産業大臣の認可を受けて決定されます。

※実施日以降、実際にお支払いいただく電気料金は、燃料費調整額および再生可能エネルギー発電促進賦課金により変動する場合がございます。

＜（規制料金）高圧の主なご契約メニューの値上げ影響 ※託送料金変動分は含まない＞

- ・規制部門の高圧の主な契約メニューにおける値上げ影響額は、以下のとおりです。

		契約電力	1か月のご使用量	お支払い額		値上げ額 (月額)	値上げ率
				現在 (月額)	値上げ後 (月額)		
500kW未満のお客さま	業務用電力	90kW	16,200kWh 夏季：4,860kWh その他季：11,340kWh	約51万円	約72万円	約21万円	40.7%
	高圧電力A	80kW	18,400kWh 夏季：4,970kWh その他季：13,430kWh	約51万円	約74万円	約23万円	46.8%
500kW以上のお客さま	業務用電力	700kW	150,500kWh 夏季：45,150kWh その他季：105,350kWh	約456万円	約650万円	約194万円	42.6%
	高圧電力B	800kW	240,000kWh 夏季：64,800kWh その他季：175,200kWh	約632万円	約941万円	約309万円	48.9%

※使用量は、1年間の使用量（夏季・その他季）を1か月当たりとしたものです。

※現在および値上げ後のお支払い額は、力率100%で算定しており、消費税等相当額および2022年度の再生可能エネルギー発電促進賦課金を含みます。

※現在の支払い額には、2022年7月～9月の平均燃料価格に基づく燃料費調整単価(3.84円/kWh)を含みます。

※実施日以降、実際に支払いいただく電気料金は、燃料費調整額および再生可能エネルギー発電促進賦課金により変動する場合がございます。

<自由料金の主なご契約メニューの値上げ影響 ※託送料金変動分は含まない>

・自由料金の主な契約メニューにおける値上げ影響額は、以下のとおりです。

		契約電力	1ヵ月のご使用量	お支払い額		値上げ額 (月額)	値上げ率
				現在 (月額)	値上げ後 (月額)		
低圧	グッドバリュープラン		260kWh	8,780円	12,253円	3,473円	39.6%
			400kWh	13,874円	19,218円	5,344円	38.5%
	プレミアムバリュープラン		1,000kWh	33,842円	47,202円	13,360円	39.5%
高圧	業務用Ⅱ型	240kW	81,600kWh	約221万円 (約331万円)	約326万円 (約326万円)	約105万円 (▲約5万円)	47.6% (▲1.5%)
	高圧A季特別	145kW	55,100kWh	約136万円 (約210万円)	約207万円 (約207万円)	約71万円 (▲約3万円)	52.3% (▲1.6%)
	高圧B季特別	1,000kW	440,000kWh	約1,081万円 (約1,675万円)	約1,648万円 (約1,648万円)	約567万円 (▲約27万円)	52.5% (▲1.6%)
特高	特別高圧A (2万V)	1,980kW	693,000kWh	約1,900万円 (約2,819万円)	約2,777万円 (約2,777万円)	約876万円 (▲約42万円)	46.1% (▲1.5%)
	特別高圧B (2万V)	1,700kW	680,000kWh	約1,658万円 (約2,560万円)	約2,519万円 (約2,519万円)	約861万円 (▲約41万円)	51.9% (▲1.6%)

※現在の支払い額には、2022年7月～9月の平均燃料価格に基づく燃料費調整単価(低圧:3.98円/kWh、高圧:3.84円/kWh、特別高圧:3.77円/kWh)を含みます。

※()について、既に燃調上限のないメニューをご契約いただいている特別高圧、高圧の自由料金メニューのお客さまについて、当該モデルでの試算額となっており、燃調上限のない料金水準よりも値下げとなります。

【燃調上限の設定がないメニュー(例)】 ※託送料金変動分は含まない

Eeホームホリデー	600kWh	25,440円	24,015円	▲1,425円	▲5.60%
-----------	--------	---------	---------	---------	--------

※現在の支払い額には、2022年7月～9月の平均燃料価格に基づく燃料費調整単価(17.98円/kWh)を含みます。

【共通】

※現在および値上げ後のお支払い額は、消費税等相当額および2022年度の再生可能エネルギー発電促進賦課金を含みます。

※実施日以降、実際にお支払いいただく電気料金は、燃料費調整額および再生可能エネルギー発電促進賦課金により変動する場合がございます。

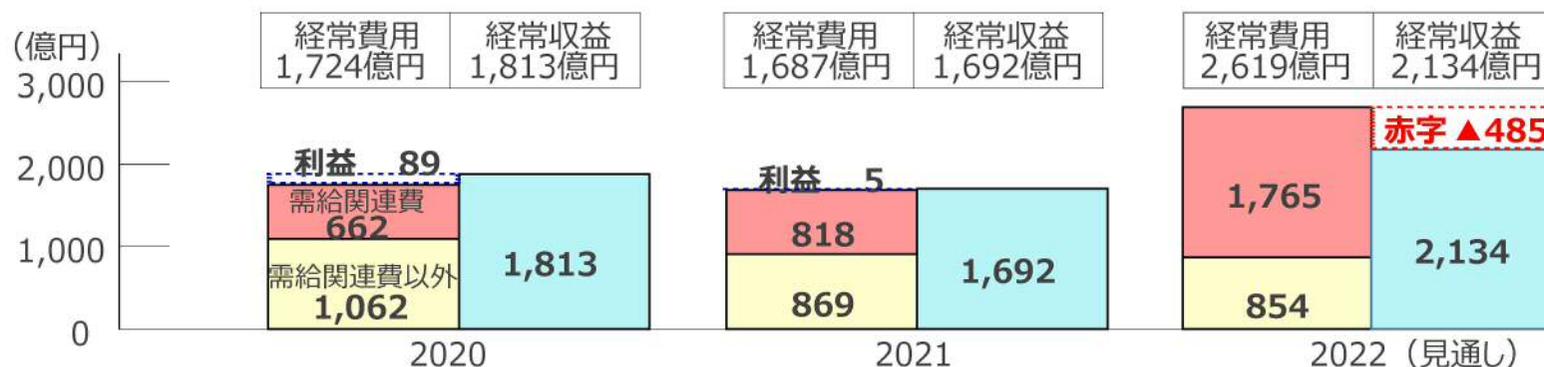
※自由化部門のお客さまについては、規制部門で認可された原価を踏まえた上で変更となる可能性があります。

以上

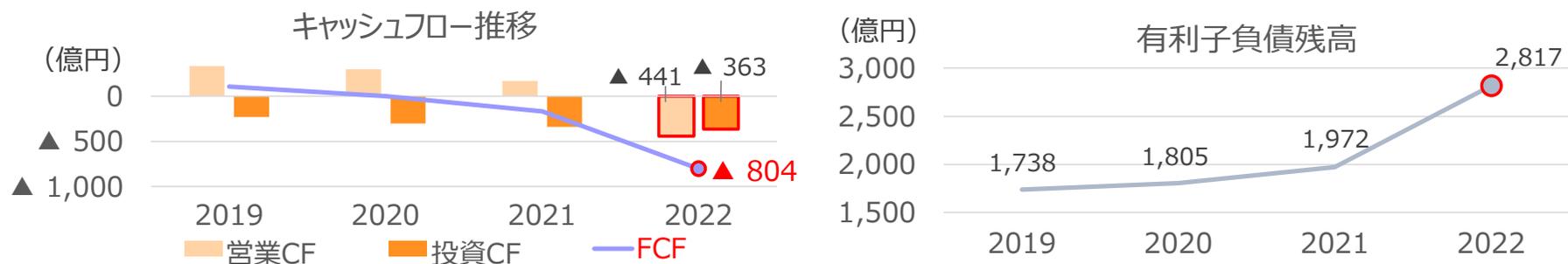
電気料金の値上げ改定について (概要説明版)

当社の経営状況（収支・財務）

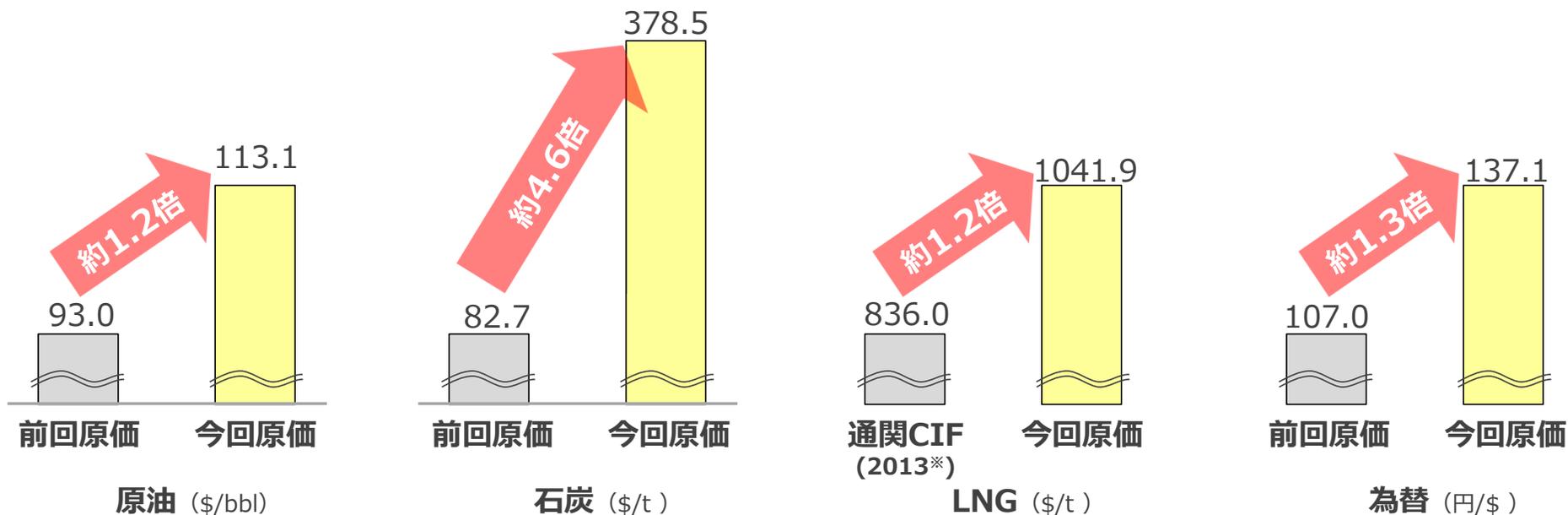
- ▶ ウクライナ情勢による資源価格の高騰および為替レートの円安の進行により、燃調上限を大幅に超過した状況となっており、この上限超過分の影響のため、2022年度の個別業績予想は485億円の経常損失となる見通し。



- ▶ 2022年度のフリーキャッシュフロー（FCF）は▲804億円となり、有利子負債残高は2,817億円に達する見込み。2022年度以降の財務状況については、現行の料金水準を維持したままでは、資金調達にも支障をきたすおそれ。



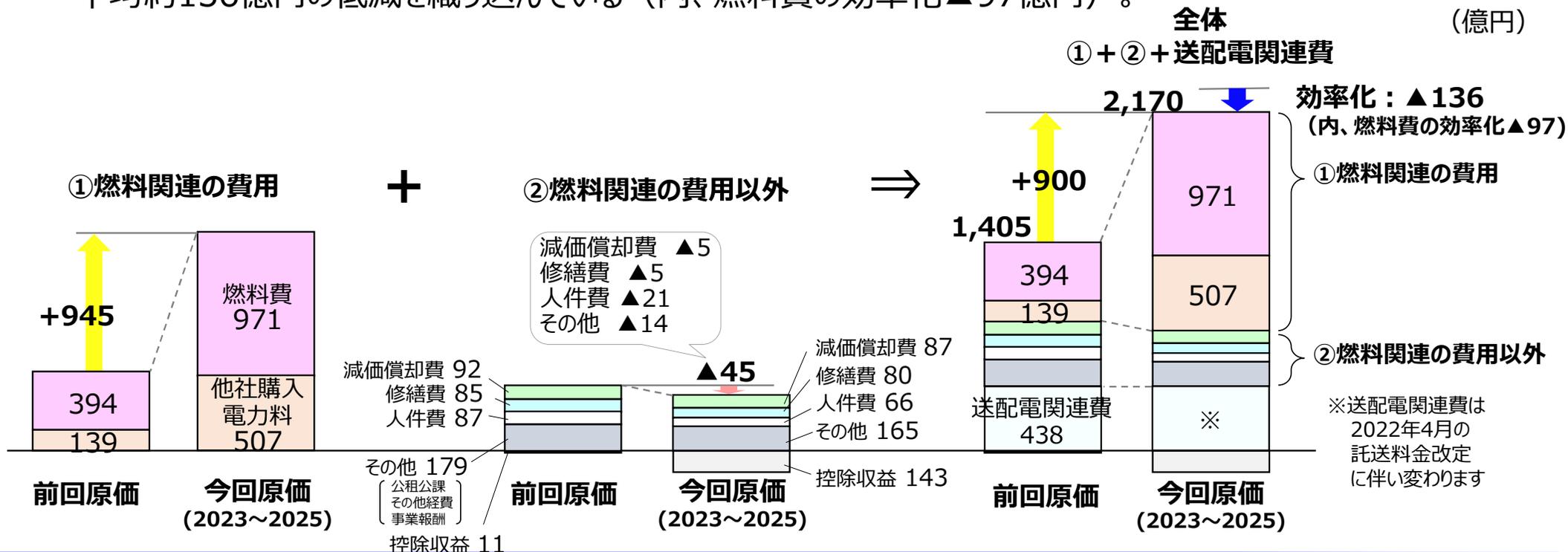
- 原価算定期間は、2023～2025年度の3年間。
- 原油価格、石炭価格、LNG価格、為替は、申請時点の直近3ヵ月（2022年7～9月）の貿易統計価格（平均値）を参照。
- 燃料価格および為替については、前回比で、原油は1.2倍、石炭は4.6倍、LNGは1.2倍（2013※通関CIF価格比）、為替は1.3倍。



※吉の浦LNG火力発電所2号機の運開年度

今回の改定における料金原価

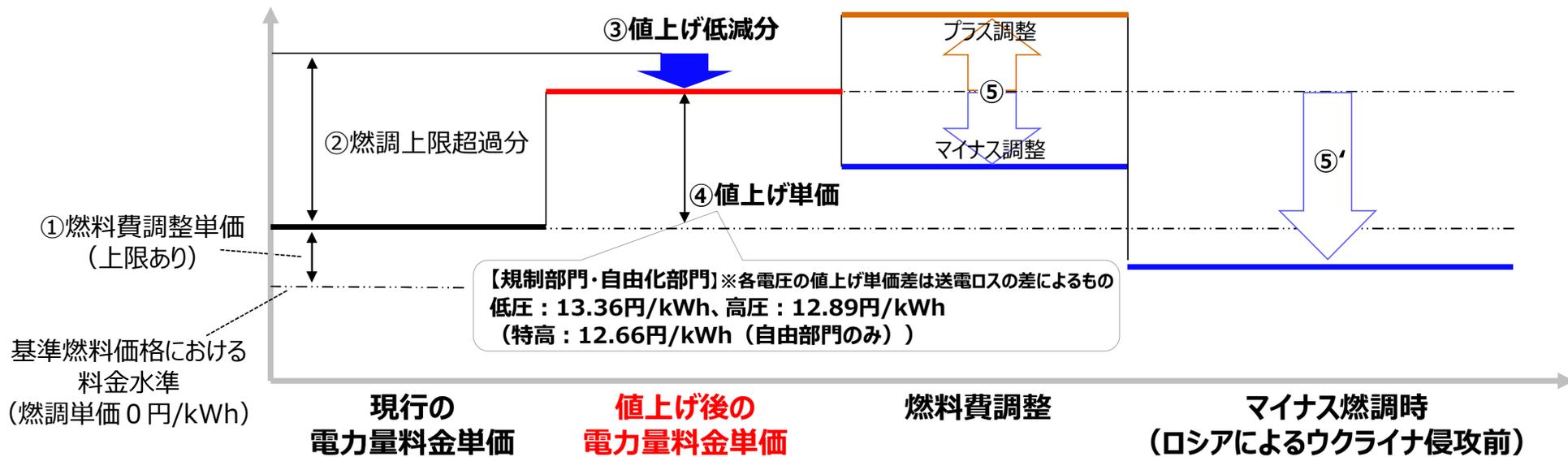
- 今回原価について、燃料関連の費用（燃料費+他社購入電力料）は燃料価格の高騰等や再エネ買取電力量の増加により、前回原価と比較して945億円増加となる見込み。
- 減価償却費や修繕費、人件費といった燃料関連の費用以外は前回原価と比較して▲45億円として織り込み。
- 申請料金原価（全体）については、前回原価と比較して900億円の増加となるものの、経営効率化により年平均約136億円の低減を織り込んでいる（内、燃料費の効率化▲97億円）。



料金値上げの内容（イメージ）

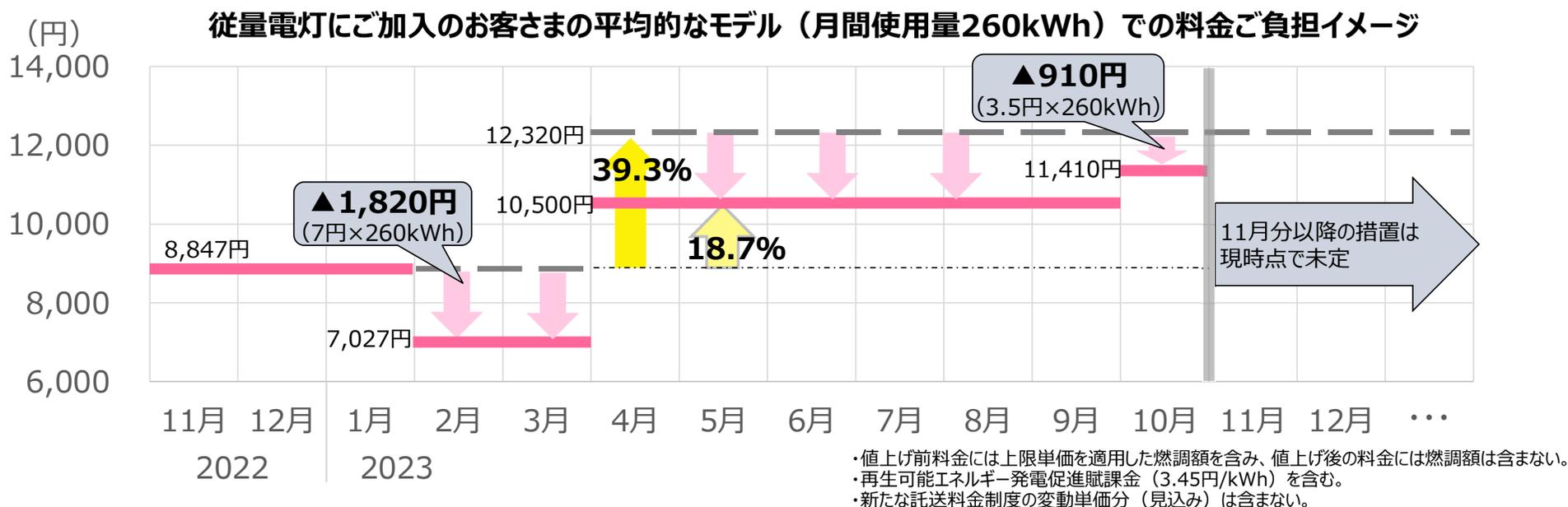
- 今回の値上げにあたっては、燃料費調整制度（以下、燃調制度）の上限価格（①）を超過した影響分（②）を織り込んだ上で、最大限の経営効率化により値上げを低減（③）。
- 主たる要因が燃料費の上昇となっていることから、燃調制度と同様、現行の電力量料金単価に一律の値上げ単価を上乗せ（④）。
- 燃料価格の変動は燃調制度により毎月変動（⑤）。燃種毎の価格動向にもよるが、仮に、ロシアによるウクライナ侵攻の影響を受ける前のレベルまで燃料価格が下がった場合（⑤'）、現行の電力量料金単価よりも低下する見込み。

※2017年4月に導入したEeホームやEeビジネス、既に燃調上限のないメニューをご契約いただいている特別高圧、高圧の自由料金メニューのお客さまについて、今回の見直しは更なる値上げということではなく、燃調分を含めて料金の構成を見直し、効率化分を織り込んだ単価を設定することになるため、燃調上限のない料金水準よりも値下げとなります。（託送料金変動分は含みません）



(参考) 国の電気・ガス価格激変緩和対策と当社の料金値上げとの関係 (イメージ)

- 国による電気・ガス価格激変緩和対策に係る電気料金の値引措置は、2023年2月分電気料金（1月検針日以降のご使用分）から実施される予定。
- 2023年4月実施予定の当社の電気料金値上げ後においても、当該値引単価（低圧：7円/kWh、高圧：3.5円/kWh）は2023年9月分料金まで継続適用され、2023年10月分電気料金に適用される値引単価は半額となる予定。（2023年11月分以降の措置は現時点で未定。）
- 従量電灯にご加入のお客さまの平均的なモデル（月間使用量260kWh）の場合、当社電気料金値上げによる値上げ率は39.3%となるものの、当該値引き措置により増加分の割合は18.7%となる見込み。



(参考) 新たな託送料金制度の反映

- 一般送配電事業者における必要な投資とコスト効率化を両立させ、再生可能エネルギー主力化やレジリエンス強化等を図ることを目的とした新たな託送料金制度（レベニューキャップ制度）が2023年4月より導入。
- 今回の電気料金の値上げの他に、当該制度に伴う託送供給等約款の見直しを踏まえた、電気料金単価への反映について、2023年4月1日から予定。
- 具体的な料金単価は、新たな託送供給等約款の認可を踏まえ、改めてお知らせ予定。

	1kWhあたりの変動単価 (見込み)
特 別 高 圧	0.62円
高 圧	1.16円
低 圧	1.86円

※一般送配電事業託送供給等約款料金算定規則に準じた参考値

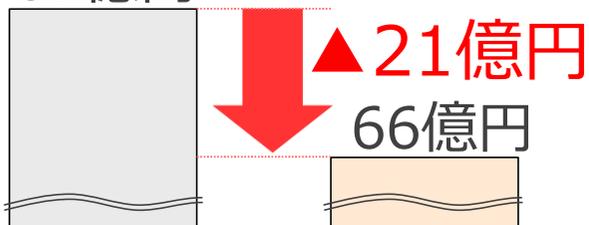
- 人件費については、役員給与・社員給与水準の引き下げにより▲21億円を低減。
- 燃料費については、調達方法、調達先の多様化による燃料費の低減等により▲97億円を低減。
- 修繕費や減価償却費の設備関連費については、点検周期や設計、仕様、工法の精査等により▲8億円を低減。
- その他経費については、支出項目の精査・厳選等により▲10億円を低減。

項目	2023~2025 平均	取り組み内容
人 件 費	▲ 21 億円	・審査要領等を踏まえた 役員給与・社員給与水準の引き下げ 等
燃 料 費	▲ 97 億円	・調達方法、調達先の多様化による燃料費の低減 ・発電単価を考慮したLNG・石炭機の運用効率化等による燃料費の低減 等
修 繕 費	▲ 7 億円	・点検周期、設計・数量・単価等の精査によるコスト低減 等
減 価 償 却 費	▲ 1 億円	・設計・仕様・工法の精査、発注方法の見直し 等
そ の 他 経 費	▲ 10 億円	・支出項目の精査・厳選や契約内容の見直し等による普及開発関係費、 委託費、諸費、賃借料の削減 等
合 計	▲ 136 億円	

- ▶ 役員給与、給料手当を引き下げを行い、退職給与金における年金資産運用の見直し、福利厚生制度の見直し等の効率化を織り込むことで、人件費全体で、前回改定原価と比較して約21億円の減少。
- ▶ 役員給与については、前回改定原価と比較して約1億円の減少。
- ▶ 給料手当については、前回改定原価と比較して約12億円の減少。

人件費原価 (▲24%)

87億円

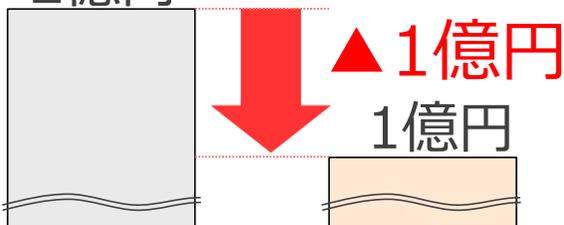


前回

今回

役員給与 (▲51%)

2億円

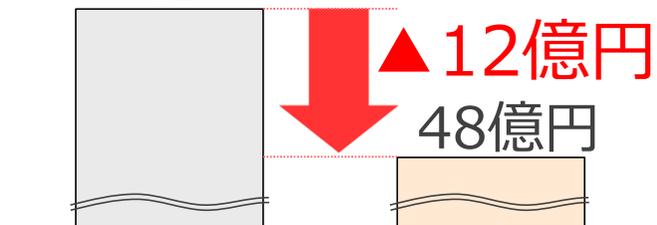


前回

今回

給料手当 (▲20%)

60億円



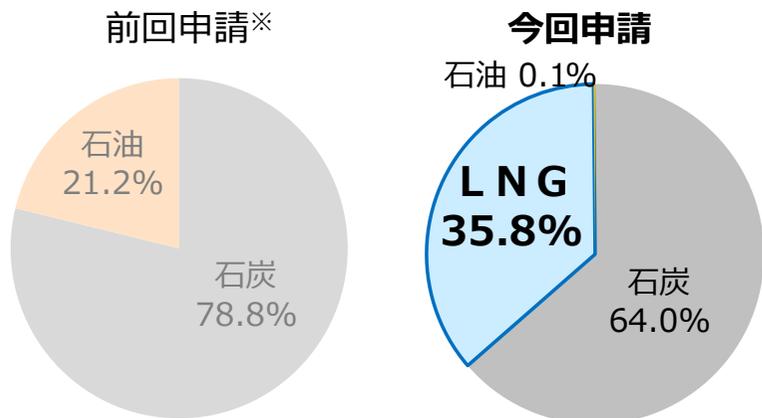
前回

今回

燃料費の低減（電源多様化について）

- 2012年にLNGを燃料とする吉の浦火力が運開したことにより、減価償却費等の増加がありましたが、効率化により電気料金の上昇抑制に努めてきたところ。
- 今回の申請による自社の燃料別発電電力量割合は石油火力：0.1%、石炭火力：64.0%、LNG火力：35.8%
- 吉の浦火力が運開し、電源を多様化したことにより、電源構成が石炭と石油のみであった場合と比べて、一般的な燃料価格高騰局面では92億円（3ヶ年平均）の燃料費の抑制を原価に織り込むことができ、価格変動リスクの分散化に繋がっている。

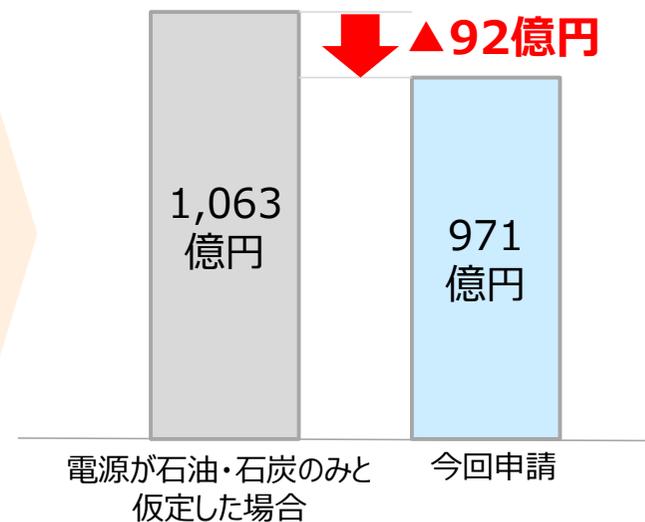
＜自社発電電力量割合＞



※離島および電源持替相当分を含む

LNG火力が運開し
電源を多様化したことにより、
92億円の燃料費抑制
を原価に織り込み
(価格変動リスクの分散化)

＜燃料費（3ヶ年平均）＞



(参考) 規制料金の値上げ影響 (低圧の主なご契約メニューの値上げ影響)

- 規制部門の低圧の主な契約メニューにおける値上げ影響額は、以下のとおり。
- ご家庭等で、最もご契約口数の多い従量電灯にご加入のお客さまの値上げ影響額について、平均的なモデル（月間使用量260kWh）で約39%の値上げ。

【値上げ影響（託送料金変動分は含まない）】

契約種別	契約電力	1か月の ご使用量	お支払額（月額）		値上げ額 （月額）	値上げ率
			現在	値上げ後		
従量電灯	—	260 kWh	8,847 円	12,320 円	3,473 円	39.3 %
低圧電力	8 kW	560 kWh 夏季：196 kWh その他季：364 kWh	22,738 円	30,219 円	7,481 円	32.9 %

※低圧電力は、1年間のご使用量（夏季・その他季）を1か月当たりとし、力率90%で算定しております。

※現在および値上げ後のお支払い額は、消費税等相当額および2022年度の再生可能エネルギー発電促進賦課金を含みます。

※現在の支払い額には、2022年7月～9月の平均燃料価格に基づく燃料費調整単価(3.98円/kWh)を含みます。

※実際の値上げ実施日・料金等は、経済産業大臣の認可を受けて決定されます。

※実施日以降、実際にお支払いいただく電気料金は、燃料費調整額および再生可能エネルギー発電促進賦課金により変動する場合がございます。

(参考) 規制料金の値上げ影響 (高圧の主なご契約メニューの値上げ影響)

▶ 規制部門の高圧の主な契約メニューにおける値上げ影響額は、以下のとおり。

【値上げ影響 (託送料金変動分は含まない)】

		契約電力	1か月の ご使用量	お支払額 (月額)		値上げ額 (月額)	値上げ率
				現在	値上げ後		
500kW 未満の お客さま	業務用電力	90 kW	16,200 kWh 夏季：4,860 kWh その他季：11,340 kWh	約51万円	約72万円	約21万円	40.7 %
	高圧電力A	80 kW	18,400 kWh 夏季：4,970 kWh その他季：13,430 kWh	約51万円	約74万円	約23万円	46.8 %
500kW 以上の お客さま	業務用電力	700 kW	150,500 kWh 夏季：45,150 kWh その他季：105,350 kWh	約456万円	約650万円	約194万円	42.6 %
	高圧電力B	800 kW	240,000 kWh 夏季：64,800 kWh その他季：175,200 kWh	約632万円	約941万円	約309万円	48.9 %

※使用量は、1年間の使用量(夏季・その他季)を1か月当たりとしたものです。

※現在および値上げ後のお支払い額は、力率100%で算定しており、消費税等相当額および2022年度の再生可能エネルギー発電促進賦課金を含みます。

※現在の支払い額には、2022年7月～9月の平均燃料価格に基づく燃料費調整単価(3.84円/kWh)を含みます。

※実施日以降、実際に支払いいただく電気料金は、燃料費調整額および再生可能エネルギー発電促進賦課金により変動する場合がございます。

(参考) 自由料金の値上げ影響 (主なご契約メニューの値上げ影響)

➤ 自由料金の主な契約メニューにおける値上げ影響額は、以下のとおり。

【値上げ影響 (託送料金変動分は含まない)】

	契約電力	1ヵ月のご使用量	お支払い額		値上げ額 (月額)	値上げ率	
			現在 (月額)	値上げ後 (月額)			
低圧	グッドバリュープラン		260kWh	8,780円	12,253円	3,473円	39.6%
			400kWh	13,874円	19,218円	5,344円	38.5%
	プレミアムバリュープラン		1,000kWh	33,842円	47,202円	13,360円	39.5%
高圧	業務用Ⅱ型	240kW	81,600kWh	約221万円 (約331万円)	約326万円 (約326万円)	約105万円 (▲約5万円)	47.6% (▲1.5%)
	高圧A季特別	145kW	55,100kWh	約136万円 (約210万円)	約207万円 (約207万円)	約71万円 (▲約3万円)	52.3% (▲1.6%)
	高圧B季特別	1,000kW	440,000kWh	約1,081万円 (約1,675万円)	約1,648万円 (約1,648万円)	約567万円 (▲約27万円)	52.5% (▲1.6%)
特高	特別高圧A (2万V)	1,980kW	693,000kWh	約1,900万円 (約2,819万円)	約2,777万円 (約2,777万円)	約876万円 (▲約42万円)	46.1% (▲1.5%)
	特別高圧B (2万V)	1,700kW	680,000kWh	約1,658万円 (約2,560万円)	約2,519万円 (約2,519万円)	約861万円 (▲約41万円)	51.9% (▲1.6%)

※現在の支払い額には、2022年7月～9月の平均燃料価格に基づく燃料費調整単価(低圧：3.98円/kWh、高圧：3.84円/kWh、特別高圧：3.77円/kWh)を含みます。

※ () について、既に燃調上限のないメニューをご契約いただいている特別高圧、高圧の自由料金メニューのお客さまについて、当該モデルでの試算額となっており、燃調上限のない料金水準よりも値下げとなります。

【燃調上限の設定がないメニュー (例)】

Eeホームホリデー	600kWh	25,440円	24,015円	▲ 1,425円	▲ 5.60%
-----------	--------	---------	---------	----------	---------

※現在の支払い額には、2022年7月～9月の平均燃料価格に基づく燃料費調整単価(17.98円/kWh)を含みます。

【共通】

※現在および値上げ後のお支払い額は、消費税等相当額および2022年度の再生可能エネルギー発電促進賦課金を含みます。

※実施日以降、実際にお支払いいただく電気料金は、燃料費調整額および再生可能エネルギー発電促進賦課金により変動する場合がございます。

- 全ての自由料金メニューについて、燃調上限を2023年4月からは廃止。

※特別高圧および高圧の自由料金メニューの2023年4月からの燃調上限廃止については、2022年7月29日に公表済み。

※グッドバリュープラン、プレミアムバリュープラン、従量電灯plusのお客さまについて、2022年4月より燃調上限を設定する特別措置を実施していましたが、2023年3月をもって終了いたします。

※離島等供給約款における時間帯別電灯、Eeらいふ、業務用電力Ⅱ型、業務用季節別時間帯別電力、業務用ウィークエンド電力、季節別時間帯別電力、時間帯別調整契約、深夜電力および特別高圧メニューについても同様に2023年4月より燃調上限を廃止いたします。

- 低圧の下記対象メニューの供給条件についても一部、変更させていただく予定。主な変更箇所は以下のとおり。

【対象メニュー：時間帯別電灯、Eeらいふ、深夜電力等】

1. 検針票の投函廃止

毎月の電気のご使用量などは、当社ウェブサイトの「実績照会サービス」よりご確認ください。

2. 書面発行手数料の導入

紙の検針票の発行や振込払いをご希望される場合、書面発行手数料（税込220円）を毎月の電気料金に上乗せしてお支払いいただきます。

3. 制限中止割引の廃止

台風などの災害時に停電となった際の割引を廃止いたします。

(Eeらいふの場合、停電1日につき70円弱の割引)

※1～2については、お客さまへの影響の軽減のため、猶予期間を設ける予定です。

※離島等供給約款については今回変更の対象外となります。

値上げに係るお客さまへのご説明

- お客さまへは、値上げに至った背景、経営効率化の取り組み、値上げの内容等を新聞広告や当社ホームページにてお知らせする他、ご説明資料またはダイレクトメール等をお届けすることに加え、お電話やご訪問等により、丁寧にご説明してまいります。
- また、各種団体さまへのご説明や、日常業務におけるお客さまとの接点などを通じて、丁寧なご説明に努めてまいります。

ご家庭などのお客さま (低圧)	<ul style="list-style-type: none"> ■ ホームページにおいて、詳細かつタイムリーな情報提供を行うとともに、お客さまご自身の料金値上げによる影響額をご試算いただけるツールをご準備いたします。 ■ ダイレクトメール等をお届けすることで、お客さまへもれなくお知らせいたします。また、新聞広告により広くお知らせいたします。
法人のお客さま (特別高圧、高圧)	<ul style="list-style-type: none"> ■ ご説明資料を郵送のうえ、お電話やご訪問等を通じて、値上げに至った背景、経営効率化の取り組み、値上げの内容や値上げによる影響額等を丁寧にご説明してまいります。
各種団体さま	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各種団体さまに、ご訪問等を通じて、丁寧にご説明してまいります。
お問い合わせへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ■ 値上げに関するお客さまからのご意見・ご質問等に対する専用窓口（電気料金値上げに関する専用ダイヤル）を設置し、お問い合わせに対して丁寧にお応えしてまいります。

- ▶ 当社ホームページにおいて、電気を効率よくお使いいただくための節電・省エネの方法や、契約メニューの変更によるシミュレーション等、お客さまのお役に立つツールをご紹介します。

■ 節電・省エネに関するお役立ちツールのご紹介

①ご家庭向けエコアイデアとして、電化製品の上手な使い方についてご紹介しております。

<https://www.kaeru.tv/eco/idea.html>

②2022年度節電キャンペーン申込受付中です。
・受付期間：2022年10月28日～12月31日

<https://more-e.okiden.co.jp/event/detail/64>



①法人のお客さま向けに、省エネ手法についてご紹介しております。

<https://www.okiden.co.jp/business/e-waja/energy-saving/>

②高圧・特別高圧でご契約のお客さまに、「冬の節電 キャンペーン2022（高圧・特別高圧）」申込受付中です。
・受付期間：2022年11月16日～12月31日

<https://go.okiden.co.jp/ecocampaign202201>



■ 電気料金比較シミュレーションのご紹介

電気のご使用量を入力し、現在のご契約メニューとその他のご契約メニューとの料金を比較します。

電気料金単価表はこちらに掲載しております。

<https://www.okiden.co.jp/common/price/>

<料金比較結果>

各メニューにおける試算結果は、年間を通して比較することをおすすめしております。

	従来電灯 (比較元の契約)	グッドバリュー プラン	プレミアムバリュー プラン
電気料金	17,864円	17,551円	16,942円
差額	-	-313円	-922円

基本料金	402円	402円	10,590円
電力単料金合計	13,746円	13,434円	2,637円
燃料費調整額※	1,989円	1,989円	1,990円
割引	0円	0円	-
再エネ賦課金※	1,725円	1,725円	1,725円
詳細	詳細	詳細	詳細

料金メニューの変更はこちら

■ お問い合わせ窓口

【沖縄電力ホームページ】 <https://www.okiden.co.jp/>

【電気料金値上げに関する専用ダイヤル】 0120-586-704

受付時間：月～金 8：30～17：00 <祝日,振替休日,慰霊の日,旧盆（7/15）,年末年始（12/29～1/3）を除く>

【沖縄電力ホームページQRコード】





電気料金の値上げ申請について

2022年11月
沖縄電力株式会社

- 当社は、低廉な電気を安定的にお客さまへお届けすることを通して、地域社会の成長発展を支えることを基本的な使命とし、小売全面自由化により競争が激化する中、不断の経営効率化によって電気料金の低減に努めてまいりました。
 - しかしながら、ウクライナ情勢による資源価格の高騰および為替レートの円安の進行により、燃料費や他社購入電力料などの燃料関連費用が急激に増加するとともに、燃料費調整額の算定に用いる平均燃料価格が調整の上限価格（以下、燃調上限）を大幅に超過することによって、財務状況が急激に悪化しております。
 - こうした状況に対処するため、本年4月に「緊急経営対策委員会」を設置してあらゆる収支対策を検討・実施しつつ、規制料金を含む全ての電気料金の値上げ実施に向けて具体的な検討を進めてまいりましたところ、当社最大の使命である電力の安定供給を継続していくためにも、苦渋の決断ではありますが、経営合理化の徹底を前提に電気料金の値上げをお願いすることといたしました。
 - この度は、お客さまにご負担をおかけすることとなり、大変心苦しい限りですが、何とぞご理解を賜りますようお願い申し上げます。
-

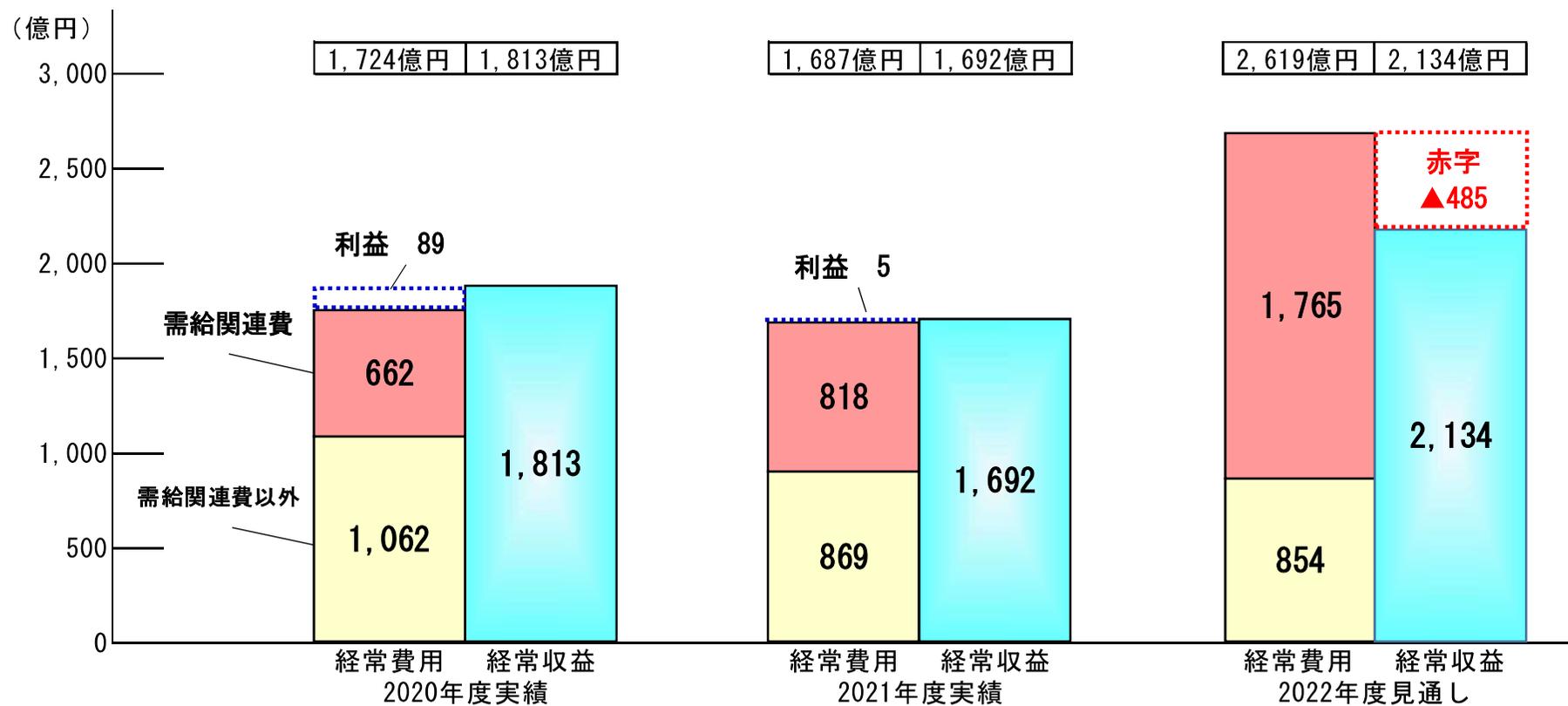
目 次

<p>1. 当社の経営状況 …P4～P5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収 支 …P4 ・財 務 …P5 <p>2. 電気料金の値上げ申請の概要 …P6</p> <p>3. 原価算定における前提諸元 …P7</p> <p>4. 原価算定の概要 …P8～P9</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回2008年改定時との比較 …P8 ・ 原価に織り込んだ経営効率化の内訳 …P9 <p>5. 原価の内訳 …P10～P21</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人件費 …P10 ・ 燃料費 …P12 ・ 他社購入・他社販売電力料 …P13 ・ 修繕費 …P14 ・ 減価償却費 …P15 ・ 事業報酬 …P17 ・ 公租公課 …P19 ・ その他経費・控除収益 …P20 <p>6. 原価および収入 …P22～P23</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 規制部門 …P22 ・ 自由化部門 …P23 	<p>7. 規制部門の料金 …P24～P30</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 値上げの内容 …P24 ・ ご家庭向けの電気料金設定の考え方 …P25 ・ 高圧向け電気料金設定の考え方 …P27 ・ 供給条件(約款規定)の主な変更について …P29 <p>8. 自由化部門の料金 …P30～P31</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 値上げの内容 …P30 ・ 供給条件の主な変更について …P31 <p>9. 新たな託送料金制度の導入の反映 …P32</p> <p>10. 値上げに係るお客さまへのご説明 …P33～P34</p> <p style="padding-left: 20px;">【参考】燃料費調整の見直し …P35～P37</p>
---	---

1. 当社の経営状況（収支）

- ウクライナ情勢による資源価格の高騰および為替レートの円安の進行により、燃料費調整額の算定に用いる平均燃料価格が調整の上限価格を大幅に超過した状況となっております。この上限超過分が累積的に拡大していることにより、2022年度の個別業績予想は485億円の経常損失となる見通しとなっております。これは直近9年分の経常利益累計額に相当します。

収支の推移 ※単体決算

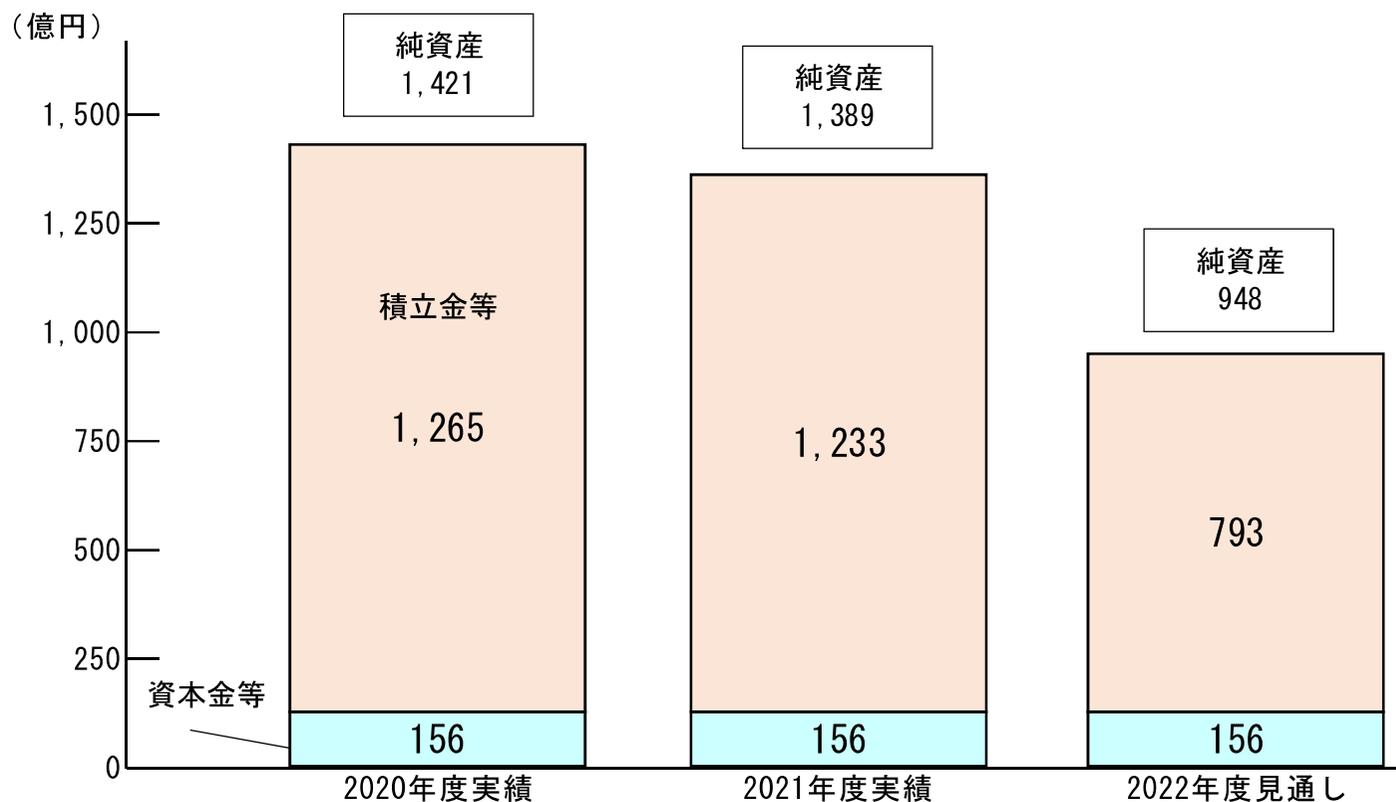


- ▶ 需給関連費：燃料費＋他社購入電力料
- ▶ 需給関連費以外：上記以外

1. 当社の経営状況（財務）

- 2022年度以降の財務状況については、現行の料金水準を維持したままでは、急激に悪化することが想定され、抜本的な構造の変化がなければ、純資産が資本金を下回り、資金調達にも支障をきたすおそれがあります。

純資産の推移と有利子負債および自己資本比率 ※単体決算



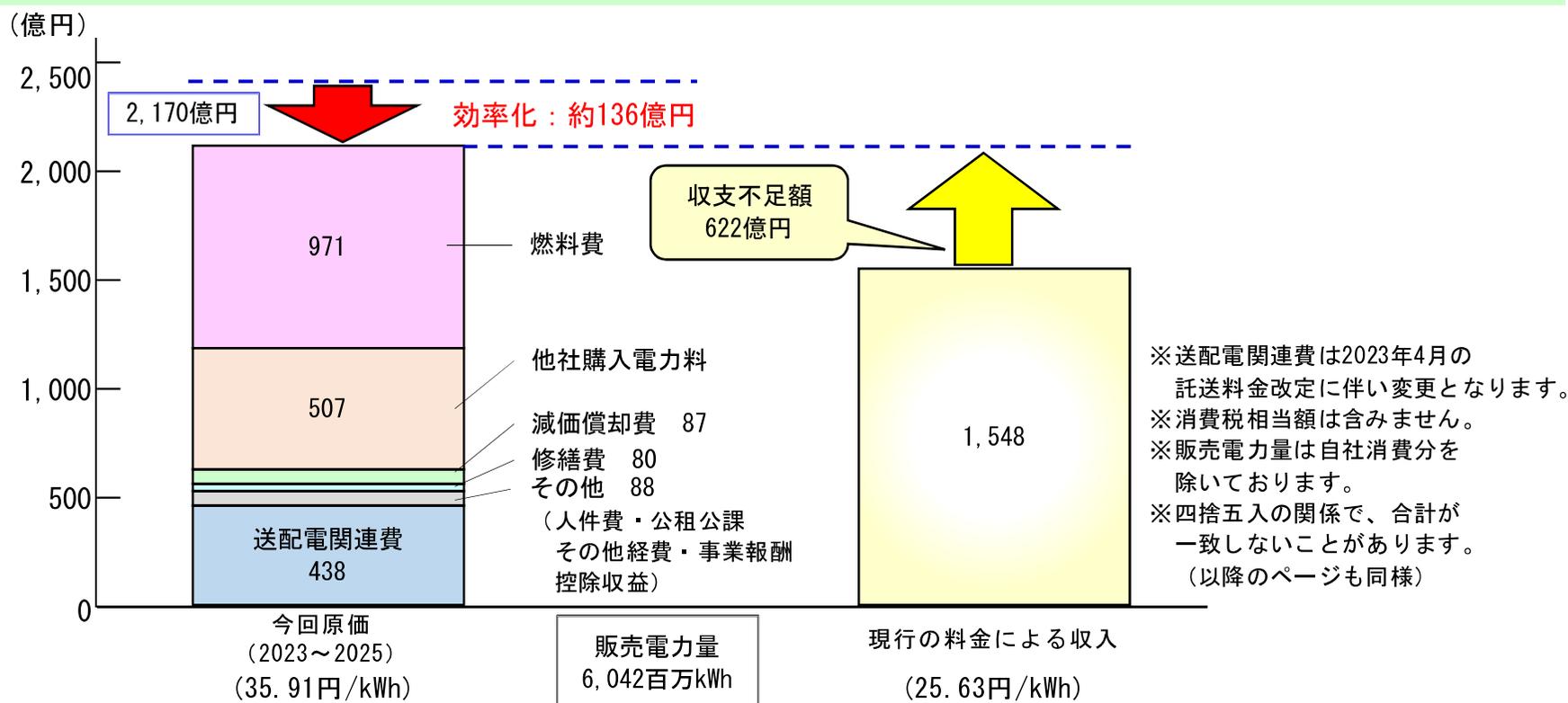
有利子負債	1,805億円	1,972億円	2,817億円
自己資本比率	36%	34%	21%程度

- ▶積立金等：その他利益剰余金＋自己株式＋評価・換算差額等
- ▶資本金等：資本金＋資本準備金＋利益準備金

2. 電気料金の値上げ申請の概要

- 料金原価算定期間は、「みなし小売電気事業者特定小売供給約款料金審査要領」（以下、審査要領）の規定に則り、2023年度から2025年度の3年間といたしました。
- 申請料金原価については、経営効率化により、年平均約136億円の低減を織り込むものの、燃料価格の高騰による燃料費の増加や再エネ買取電力量の増加による他社購入電力料の増加により年平均2,170億円となる見込みです。当該期間において、現行の料金を継続した場合の収入は年平均1,548億円にとどまり、この結果、年平均622億円の収入不足が発生するものと見込まれます。
- このため、お客さまにはご負担をおかけすることとなり、大変心苦しい限りですが、2023年4月1日から、規制部門のお客さまについては43.81%の値上げ（低圧:40.93%、高圧:50.02%）を、自由化部門のお客さまについては37.91%の値上げをお願いさせていただくこととしました。（一部自由料金メニューは現行料金において既に燃調上限が廃止されている為、規制部門よりも改定率が低くなっております。）

原価と「現行料金による収入」との比較（2023～2025平均）



3. 原価算定における前提諸元（前回2008年改定時との比較）

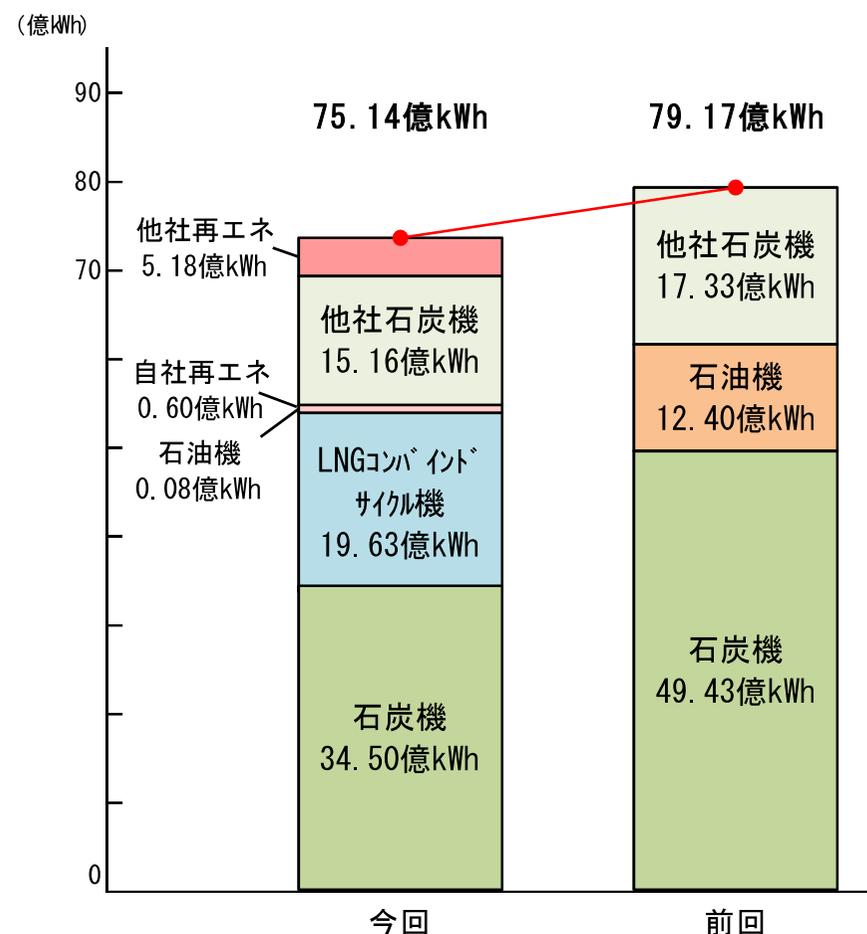
- 販売電力量は、他の小売電気事業者へのスイッチングにより減少しております。
- 為替レートや燃料価格などが上昇しており、特に石炭価格が大幅に上昇しております。
- 発受電電力量は、LNG火力の導入や再エネの増加に伴い石炭機の発電量が減少しております。

○原価算定の前提諸元

	①今回 2023~2025平均	②前回 2008	差引 (①-②)
想定電力量 (百万kWh)	6,042	6,381	▲ 339
為替 (円/\$)	137.1	107.0	30.1
原油 (\$/bbl)	113.1	93.0	20.1
石炭 (\$/t)	378.5	82.7	295.8
LNG (\$/t)	1,041.9	-	1,041.9
事業報酬率 (%)	2.7	3.0	▲ 0.3

- ・販売電力量は、自社消費分を除いております。
- ・為替レート～LNG価格は、申請時点の直近3カ月（2022年7～9月）の貿易統計価格（平均値）を参照しております。
- ・事業報酬率の算定に際し、自己資本報酬率の算定に使用する公社債利回り・事業経営リスク（ β 値）・全産業の自己資本利益率は2014～2020年度の7年間のデータを使用しております

○発受電電力量比較



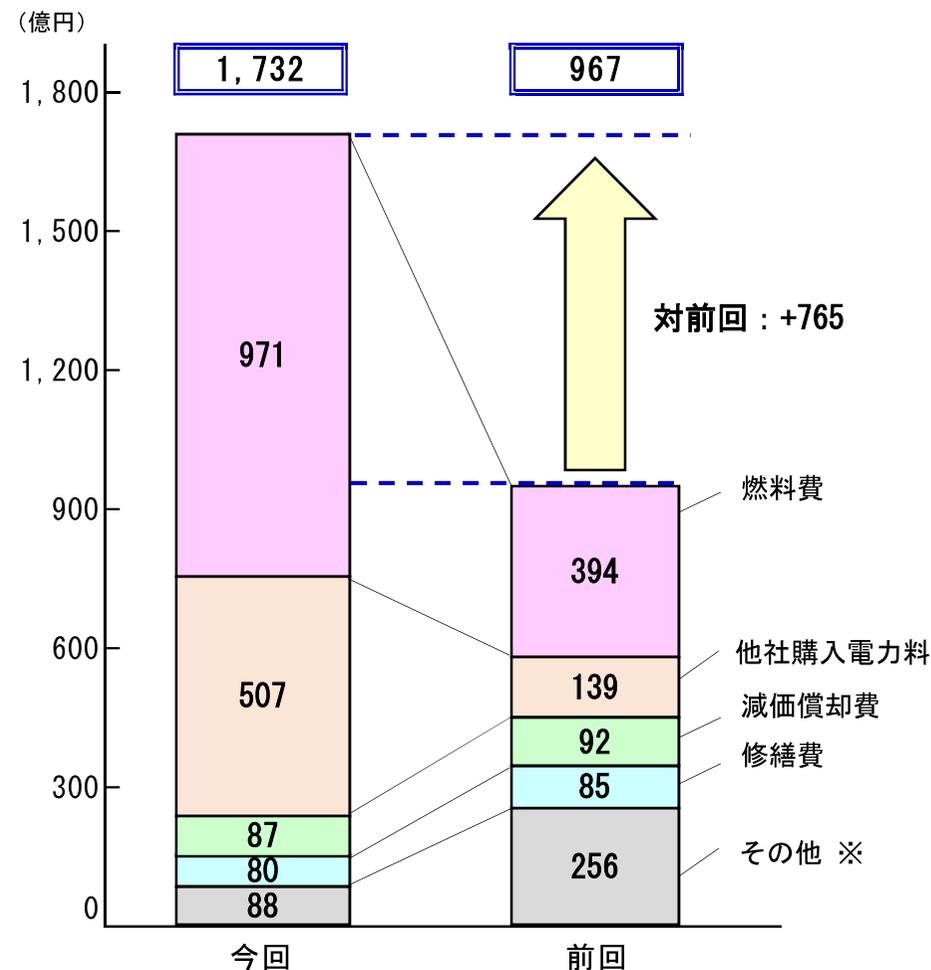
4. 原価算定の概要（前回改定時との比較）

- 2023年度から2025年度の年平均原価（送配電関連費を除く。スライド21まで同じ）は、経営効率化による約136億円の経営効率化を織り込むものの、燃料費や他社購入電力料の増加などにより、前回（2008年）改定時と比べて765億円増加しております。

			(億円)		
			①今回 2023~2025平均	②前回 2008※	差引 (①-②)
人	件	費	66	87	▲ 21
燃	料	費	971	394	577
修	繕	費	80	85	▲ 5
資	本	費	149	144	5
	減価償却費		87	92	▲ 6
	事業報酬		62	52	9
他社購入電力料			507	139	367
公租公課			31	23	8
その他経費			72	104	▲ 33
控除収益			▲ 143	▲ 11	▲ 132
総	原	価	1,732	967	765

・送配電関連費を除く原価を記載しております

※ 2008年料金原価から2016年託送料金原価を除き算定しております



※ 人件費・公租公課・その他経費・事業報酬・控除収益

4. 原価算定の概要（原価に織り込んだ経営効率化の内訳）

- 今回、電気料金の値上げ申請を行うにあたっては、緊急経営対策委員会での検討内容も踏まえ、これまで以上の経営効率化に取り組み、お客さまのご負担の軽減を目指していきます。
- 今回の料金原価の算定期間である2023年度から2025年度において、人件費、燃料費、修繕費、減価償却費、その他経費について年平均約136億円の経営効率化を織り込んでいます。

【効率化反映額の内訳】

項目	2023～2025平均	取り組み内容
人件費	▲ 21億円	・ 審査要領等を踏まえた役員給与・社員給与水準の引き下げ 等
燃料費	▲ 97億円	・ 調達方法、調達先の多様化による燃料費の低減 ・ 発電単価を考慮したLNG・石炭機の運用効率化等による燃料費の低減 等
修繕費	▲ 7億円	・ 点検周期、設計・数量・単価等の精査によるコスト低減 等
減価償却費	▲ 1億円	・ 設計・仕様・工法の精査、発注方法の見直し
その他経費	▲ 10億円	・ 支出項目の精査・厳選や契約内容の見直し等による普及開発関係費、委託費、諸費、賃借料の削減 等
合計	▲ 136億円	

5. 原価の内訳（人件費）

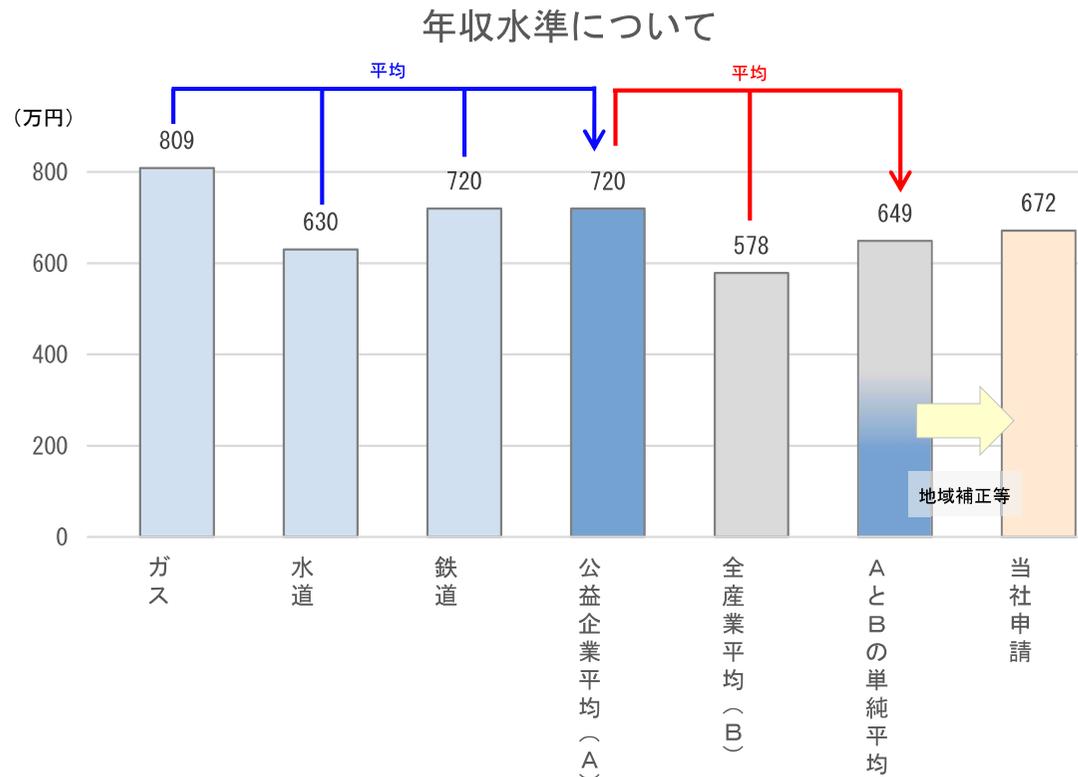
- 「審査要領」に記載のメルクマールを基準とし、役員給与および給料手当、厚生費（健康保険料の事業主負担割合）を引き下げております。
- 退職給与金における年金資産運用の見直し、福利厚生制度の見直し等の効率化を織り込んでおります。
- 人件費全体で、前回改定原価と比較して約21億円の減少となっております。

(百万円)

	①今回 2023～2025平均	②前回 2008	差引 (①-②)	備 考
役 員 給 与	105	216	▲ 111	・ 社内役員給与はメルクマール水準を適用
給 料 手 当	4,782	5,960	▲ 1,178	・ 社員年収はメルクマール水準を適用 ・ メルクマール水準に各年度3%の賃上げを加味
給 料 手 当 振 替 額	▲ 46	▲ 65	19	
退 職 給 与 金	532	1,100	▲ 568	・ 数理計算上の差異償却費用の減
厚 生 費	831	810	21	・ 健康保険料の会社負担率はガス事業及び水道事業等の平均を適用 ・ シンボルスポーツに関する費用等を原価不算入
委 託 検 針 費	0	82	▲ 82	
委 託 集 金 費	205	22	183	・ 2025年以降は業務の委託化・郵送化に伴い不算入
雑 給	205	555	▲ 350	・ 顧問および相談役給与は不算入、雑給人員の減を織り込み
人 件 費 計	6,613	8,680	▲ 2,067	
経費対象人員(全系)	1,590人	1,542人	48人	・ 前回原価に新規発電所建設に係る建仮人員が多く含まれていたことにより増加

【参考】全産業・他公益企業との人件費水準比較

- 当社の一人当たりの社員年収については、「審査要領」に基づき、「賃金構造基本統計調査」における常用労働者1,000人以上の産業計（正社員）と他公益企業の平均値を基本として算定しております。
- 具体的には、産業計の平均値と、他公益企業の平均値に当社社員構成に基づく「年齢」「勤続年数」「学歴」の補正を行った値の単純平均に、「消費者物価地域差指数」の沖縄地方（0.985）の比率で地域補正を行っております。
- 各方面から賃上げの要請が行われている状況を踏まえ、メルクマールの年3%上昇を織り込んでおります。



【審査要領】

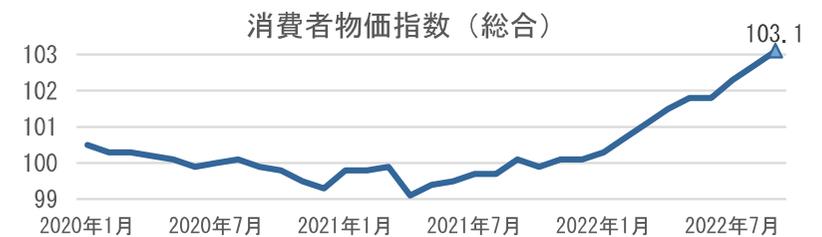
「賃金基本統計調査」における常用雇用者1,000人以上の企業平均値を基本に、ガス事業、鉄道事業等類似の公益企業の平均値とともに比較しつつ査定を行う。その際、地域間の賃金水準の差についても考慮する。

※出典：「令和3年度年賃金構造基本統計調査」厚生労働省より当社にて試算

全産業平均は賃金構造基本統計調査の統計値、公益企業平均は「年齢」「勤続年数」「学歴」補正後の数値

※出典：「令和3年平均消費者物価地域差指数」

※出典：「2020年基準 消費者物価指数（総合指数）」2022年9月分



5. 原価の内訳（燃料費）

■ 燃料費は、燃料価格の高騰および円安の影響により前回原価と比べて約577億円の増となっております。

■ 燃料費

(百万kWh、百万円)

		①今回 2023～2025平均	②前回 2008	差引 (①-②)
石油系	発電電力量	8	1,330	▲ 1,322
	金額	899	21,772	▲ 20,873
ガス系	発電電力量	1,964	-	1,964
	金額	31,031	-	31,031
石炭系	発電電力量	3,513	4,943	▲ 1,430
	金額	65,197	17,655	47,542
合計	発電電力量	5,485	6,273	▲ 787
	金額	97,128	39,428	57,700

(参考) 燃料の全日本通関価格の比較

		①今回 (2022/7～9)	②前回 (2008/1～3)	差引 (①-②)	増減率 (①-②) / ②	
為替レート	円/\$	137.1	107.0	30.1	28.1%	
C 全 I 日 F 本 価 通 格 関	原油	円/kl	97,466	62,735	34,731	55.4%
		\$/bbl	113.1	93.0	20.1	21.6%
	石炭	円/t	51,875	8,873	43,002	484.6%
		\$/t	378.5	82.7	295.8	357.7%
	LNG	円/t	142,803	-	-	-
		\$/t	1,041.9	-	-	-

5. 原価の内訳（他社購入・他社販売電力料）

- 他社購入電力料は、燃料価格の高騰による買取価格の上昇や、再エネの買取量の増加により、前回原価と比べて約367億円の増加となっております。
- 他社販売電力料は、他の小売事業者への卸電力を新たに約135億円織り込んでおります。

■ 他社購入電力料

（百万kWh、百万円）

		①今回 2023～2025平均	②前回 2008	差引 (①－②)
再エネ	購入電力量	442	13	429
	料金	10,170	393	9,777
再エネ以外	購入電力量	1,447	1,566	▲ 119
	料金	40,492	13,544	26,948
合計	購入電力量	1,889	1,579	310
	料金	50,662	13,937	36,725

■ 他社販売電力料

（百万kWh、百万円）

		①今回 2023～2025平均	②前回 2008	差引 (①－②)
他社販売	販売電力量	562	—	562
	料金	13,471	—	13,471

5. 原価の内訳（修繕費）

- 法令に基づく定期検査、保安のための自主点検、ならびに検査・診断結果等に基づく故障部品の取替工事や補修に係る費用を個々に積み上げて算定しております。
- 「審査要領」において、メルクマールとして例示されている自社の過去の修繕費率を下回る水準となるように抑制しております。
- その結果、前回原価と比較し約5億円の減少となっております。

■修繕費（前回原価との比較）

（百万円）

	①今回 2023～2025平均	②前回 2008	差引 (①-②)
修 繕 費	7,984	8,517	▲ 533

■修繕費率（過去5カ年との比較）

（百万円）

	今回 ※1	過去5カ年 (2016～2020年度) ※2
平均修繕費	9,540	9,187
平均帳簿原価	467,104	449,547
平均修繕費率	2.042%	2.044%

※1: 本島火力及び一般管理費の修繕費から送配電部門に直課される費用を控除し算定しております。

※2: 2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響等で修繕工事に遅れが生じ、他年度と比較し非常に低い水準となっていることから、算定期間から除いております。

5. 原価の内訳（減価償却費）

- 減価償却費は固定資産台帳情報や設備投資計画に基づき、定額法で算定しております。
- 償却の進行および減価償却算定方法の変更などにより前回改定原価と比較して約6億円の減少となっております。

(百万円)

	①今回 2023～2025平均	②前回 2008	差引 (①-②)	備考
減 価 償 却 費	8,667	9,248	▲ 581	前回は定率法で算定 今回は定額法で算定

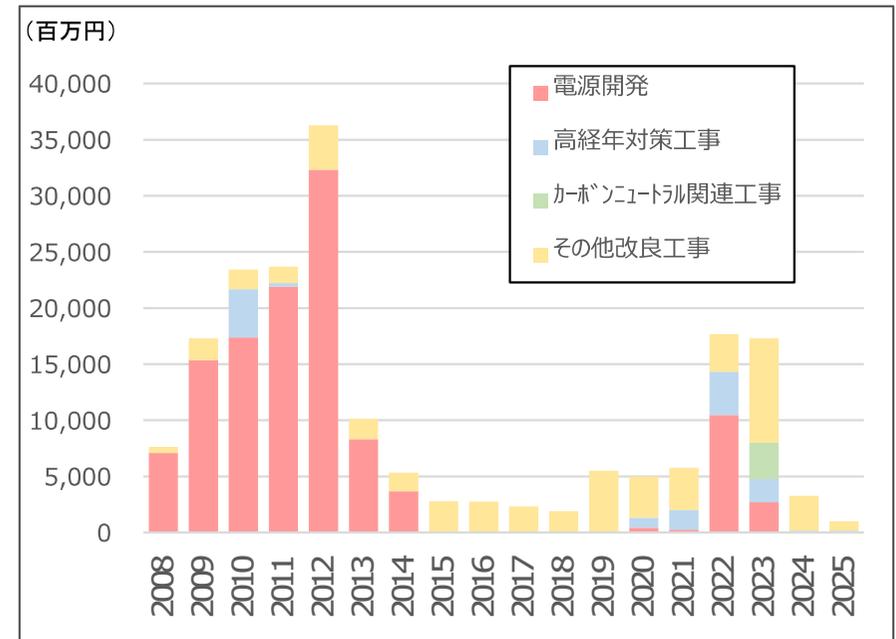
【参考】設備投資計画の概要・推移

- 火力・新エネ・業務設備の設備投資計画は前回改定と比較し、全体で約74億円の減少となっております。
- 主な減少要因は、火力設備において今回は大型発電所の建設費用を計上してはいたしましたが、今回は比較的規模が小さい電源の建設費用の計上となったことによります。

■ 発電部門全体 投資計画

	①今回 2023~2025平均	②前回 2008	差引 (①-②)
火力	7,194	15,080	▲ 7,886
新エネ	—	—	—
火力計	7,194	15,080	▲ 7,886
業務	457	7	450
合計	7,651	15,087	▲ 7,436

■ 火力設備投資額の推移



5. 原価の内訳（事業報酬）

- 「みなし小売事業者特定小売供給約款料金算定規則」（以下、算定規則）に基づき、全系の事業報酬から送配電の事業報酬を差し引いて算出しております。
- レートベースの増加により前回改定原価と比較して約9億円の増加となっております。

（百万円）

		①今回 2023～2025平均	②前回 2008	差引 (①-②)	
レ ー ト ベ ー ス	特定固定資産	77,053	83,478	▲ 6,425	
	建設中資産	2,328	6,500	▲ 4,171	
	使用済燃料再処理関連加工仮勘定	-	-	-	
	核燃料資産	-	-	-	
	特定投資	-	-	-	
	運 転 資 本	営業資本	19,237	10,814	8,423
		貯蔵品（燃料・その他）	10,674	5,325	5,349
		計	29,911	16,139	13,772
	繰延資産	-	34	▲ 34	
	小計	109,292	106,151	3,141	
	原価変動調整積立金・別途積立金	▲ 1,374	▲ 4,539	3,165	
合計	107,918	101,612	6,306		
事業報酬率	2.7%	3.0%	▲0.3%		
事業報酬	6,151	5,233	918		

【参考】事業報酬率

- 事業報酬率は、算定規則等を踏まえ、全産業の自己資本利益率や公社債利回り（自己資本報酬率）、みなし小売事業者の平均有利子負債利率（他人資本報酬率）などの指標を元に算定しております。
- 前回と比較し他人資本報酬率が低下したことから、事業報酬率は2.7%（前回比▲0.3ポイント）となりました。

【事業報酬率の算定方法】

	資本構成	今回 (A)	前回 (B)	差引 (A-B)
自己資本報酬率 (A)	30%	7.53%	5.18%	+2.35%
他人資本報酬率 (B)	70%	0.65%	2.04%	▲1.39%
事業報酬率	100%	2.7%	3.0%	▲0.3%

(A) 自己資本報酬率（2014年～2020年の7ヵ年平均値）

	ウェイト	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2014～ 2020年度
公社債利回り	21%	0.52	0.37	0.04	0.14	0.14	0.00	0.09	-
自己資本利益率	79% (β値)	9.72	9.06	9.67	10.71	10.43	9.21	7.60	-
自己資本報酬率	100%	7.79	7.24	7.65	8.49	8.27	7.28	6.02	7.53

- ・ 公社債利回り：「長期国債」「地方債」「政府保証債」の平均値。
- ・ 自己資本利益率：全産業平均（全電力除き）の自己資本利益率。公社債利回りおよび自己資本利益率の算定期間は、審査要領上の一般送配電事業者の算定期間を参照し、取得可能な直近7年間の値を使用。
- ・ β値：電気事業の事業経営リスク。公社債利回りおよび自己資本利益率と同様の算定期間を使用。

5. 原価の内訳（公租公課）

- 公租公課は、各税法（地方税法、法人税法等）に基づき、設備投資計画や販売電力量等の各種前提計画をもとに算定した結果、前回原価と比較して約8億円の増加となっております。

（百万円）

	①今回 2023～2025平均	②前回 2008	差 引 (①-②)	備考
固定資産税	669	719	▲ 50	償却進行等による課税標準の減
雑税	52	113	▲ 61	印紙税の減
事業税	1,644	1,134	510	課税対象収入の増
法人税等	703	348	355	発行済株式数の増に伴う配当金の増
合計	3,067	2,314	754	

※電源開発促進税については、全額を託送料金原価に計上するため、上表には含まれておりません。

※沖縄振興特別措置法等に基づく税制上の特別措置を織り込んでおります。

5. 原価の内訳（その他経費・控除収益）

- 廃棄物処理費や固定資産除却費が増加しておりますが、その他経費全体では前回原価と比較して約33億円の減少となっております。

【その他経費】				【控除収益】※			
	①今回 2023～2025平均	②前回 2008	差引 (①-②)		①今回 2023～2025平均	②前回 2008	差引 (①-②)
廃棄物処理費	2,422	1,537	885	電気事業雑収益	▲ 793	▲ 601	▲ 192
消耗品費	351	447	▲ 96	その他	▲ 0	▲ 488	488
補償費	273	506	▲ 233	遅収加算	—	▲ 488	488
賃借料	490	851	▲ 361	預金利息	▲ 0	▲ 0	0
委託費	2,440	3,257	▲ 816	合計	▲ 793	▲ 1,089	296
損害保険料	6	25	▲ 19				
普及開発関係費	52	897	▲ 845				
養成費	36	119	▲ 83				
研究費	39	143	▲ 104				
諸費	527	2,411	▲ 1,885				
固定資産除却費	506	216	289				
その他	37	29	8				
合計	7,178	10,438	▲ 3,260				

※：他社販売電力料は含まない

【その他経費の主な増減要因】

- ・ 廃棄物処理費
（石炭灰の県内処理単価の上昇、県外処理の追加に伴う増）
- ・ 固定資産除却費
（汽力発電設備の大型更新工事に伴う増）
- ・ 諸費
（寄付金の不算入、団体費の削減、CO2クレジット費用の減）
- ・ 普及開発関係費
（イメージ広告、オール電化関連等の不算入）

【参考】普及開発関係費、諸費、研究費

- ▶ 普及開発関係費について、イメージ広告、オール電化関連費用、販売関連の費用を全額不算入としております。
- ▶ 諸費について、寄付金は全額不算入とし、団体費については2団体のみ原価に算入しております。
- ▶ 研究費については、電力の安定供給等の観点から費用の優先度を考慮し、精査した上で原価算入しております。

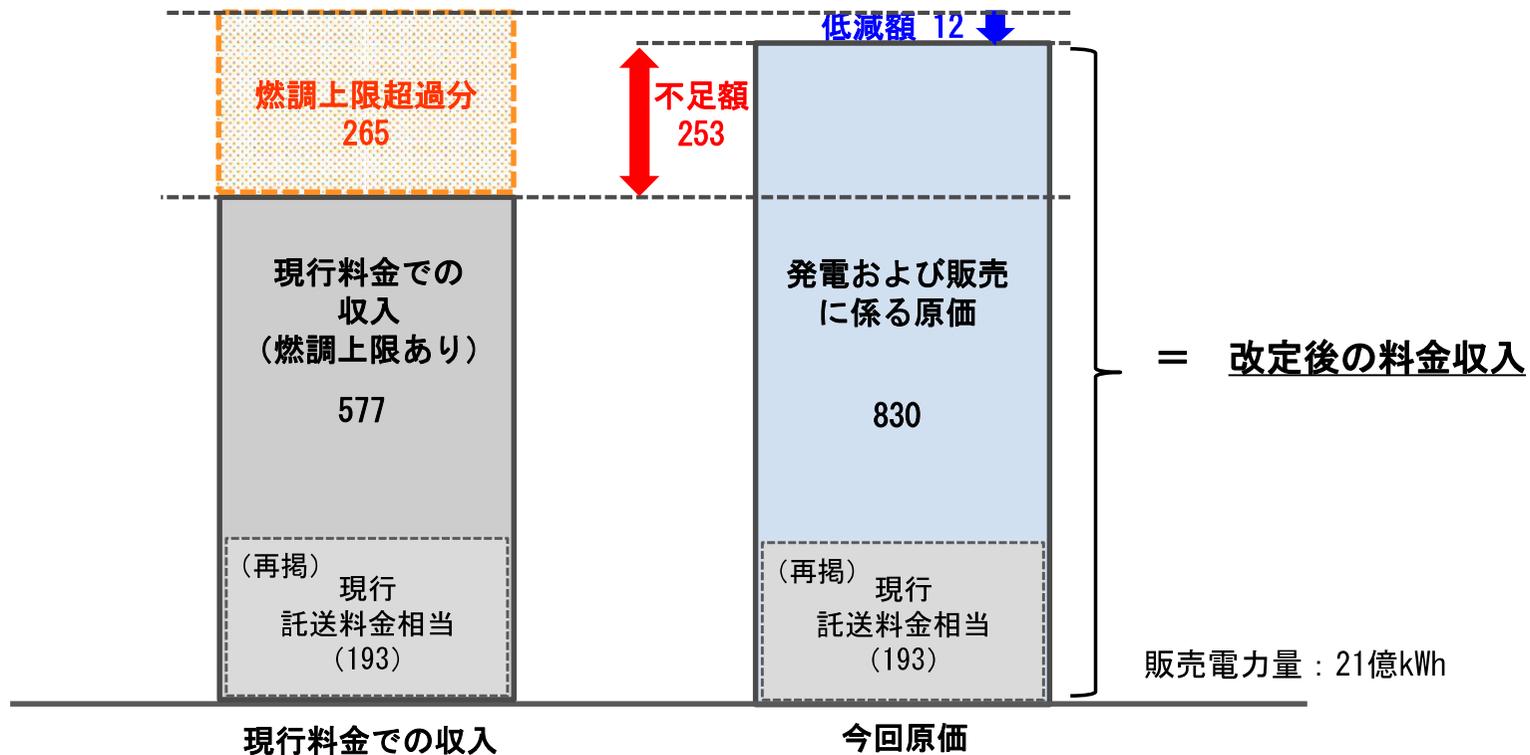
(百万円)

		申請原価	備考
普及 開発 関係 費	電 気 事 業 理 解 促 進	31	電気科学館運営業務、エネルギーに関する理解促進活動、 環境関連情報提供 等
	青 少 年 科 学 作 品 展	18	沖縄青少年科学作品展の運営業務
	電 気 の 安 全 使 用	3	ブレーカー操作周知、台風対策呼びかけ、 電気事故防止呼びかけ
	合 計	52	
諸 費	寄 付 金	-	全額不算入
	団 体 費	4	2団体のみ原価算入
	海 外 電 力 調 査 会	4	事業内容：海外の電気事業に関する調査研究等
	電力広域的運営推進機関	α	事業内容：需給計画、系統計画の取りまとめ等
研 究 費	自 社 研 究	3	
	分 担 金	34	電力中央研究所分担金

6. 原価および収入（規制部門）

- 原価算定期間における規制部門の原価は、3ヵ年平均で約830億円となっております。
- 一方、当該期間における現行の料金による収入は約577億円となっており、最大限の経営効率化を織り込んだ場合でも、年平均約253億円の不足となります。
- そのため、お客さまにはご負担をおかけすることとなり、大変心苦しい限りですが、規制部門で現行の料金より43.81%の値上げをお願いいたします。
- なお、今回の見直しにより、改定後の料金は、現行料金で燃料費調整額の上限がない場合と比べて、約12億円低減しております。

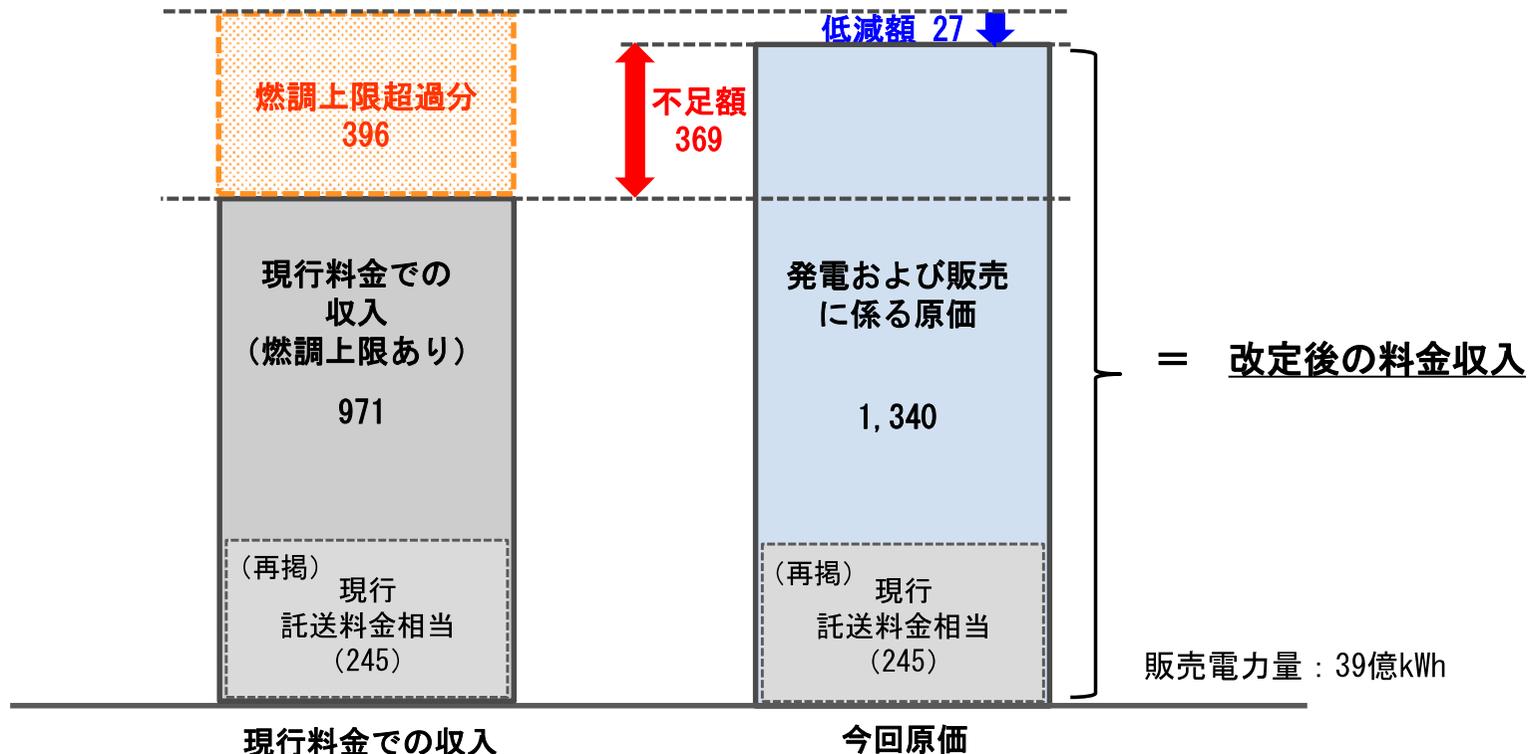
現行料金での収入と今回原価（規制部門（2023～2025年度平均）） （単位：億円）



6. 原価および収入（自由化部門）

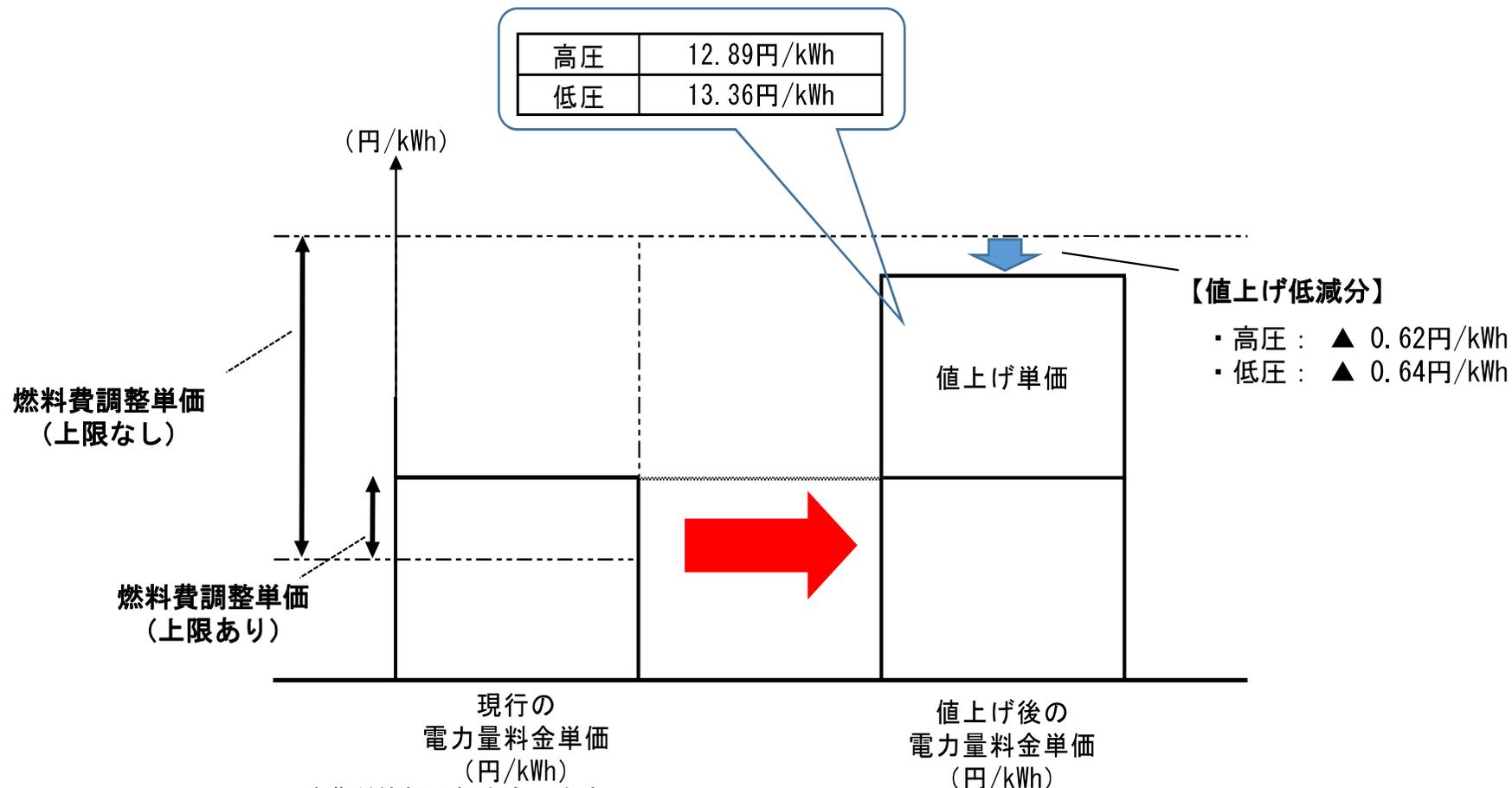
- 原価算定期間における自由化部門の原価は、3カ年平均で約1,340億円となっております。
- 一方、当該期間における現行の料金による収入は約971億円となっており、最大限の経営効率化を織り込んだ場合でも年平均約369億円の不足となります。
- そのため、お客さまにはご負担をおかけすることとなり、大変心苦しい限りですが、自由化部門で現行の料金より37.91%の値上げをお願いいたします。（一部自由料金メニューは現行料金において既に燃調上限が廃止されている為、規制部門よりも改定率が低くなっております。）
- なお、今回の見直しにより、改定後の料金は、現行料金で燃料費調整額の上限がない場合と比べて、約27億円低減しております。

現行料金での収入と今回原価（自由化部門（2023～2025年度平均））（単位：億円）



7. 規制部門の料金（値上げの内容）

- 今回の値上げにあたっては、燃料費の上昇が主たる要因となっていることから、燃料費調整制度と同様、規制部門の料金は、現行の電力量料金単価に、以下の値上げ単価を一律に上乗せしております。（自由化部門も同単価を上乗せ）

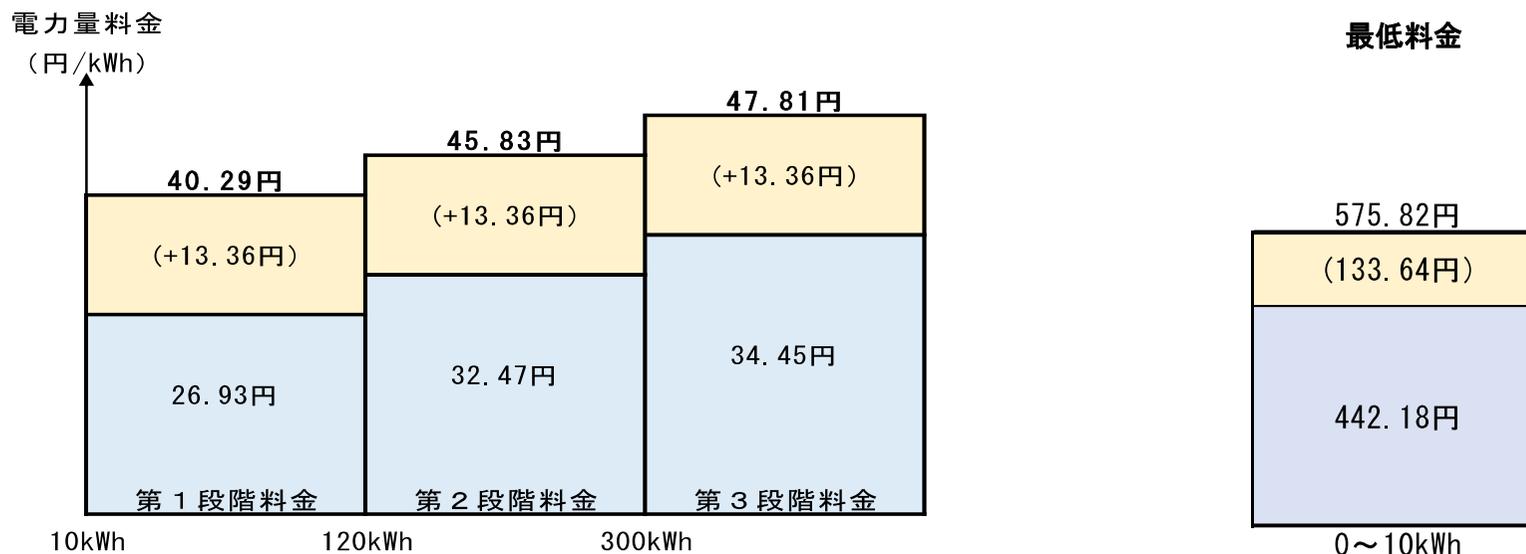


※消費税等相当額を含みます。
 ※各電圧の値上げ単価差は、送電ロスの差によるものです。
 ※現行の電力量料金単価には、2022年7月～9月の平均燃料価格に基づく燃料費調整単価を含みます。
 ※値上げ後の電力量料金単価は、燃料費調整により変動する場合がございます。

7. 規制部門の料金（ご家庭向け電気料金設定の考え方）

- ご家庭向け電気料金は、ご使用量の増加に伴い、電力量料金単価が上昇する3段階料金制度を採用しております。
- 具体的には、毎日の生活に必要不可欠な電気のご使用量に相当する第1段階料金は低廉な水準、第2段階料金は平均的な水準、第3段階料金は省エネルギー推進という観点からやや高い水準に設定しております。
- 今回の値上げにあたっては、各段階料金に一律に同一の単価を上乗せしており、引き続き各段階別料金の格差を維持しております。

3段階料金制度
【従量電灯の料金単価（託送料金変動分は含まない）】



※消費税等相当額を含みます。

※現行の最低料金および単価には、2022年7月~9月の平均燃料価格に基づく燃料費調整額(39.78円)・燃料費調整単価(3.98円/kWh)を含みます。

【参考】低圧の主なご契約メニューの値上げ影響

- 規制部門の低圧の主な契約メニューにおける値上げ影響額は、以下のとおりです。
- ご家庭等で、最もご契約口数の多い従量電灯にご加入のお客さまの値上げ影響額について、平均的なモデル（月間使用量260kWh）で約39%の値上げとなっております。
- また、低圧電力の平均的な使用量においては約33%の値上げとなっております。

【値上げ影響（託送料金変動分は含まない）】

契約種別	契約電力	1か月のご使用量	お支払い額		値上げ額 (月額)	値上げ率
			現在 (月額)	値上げ後 (月額)		
従量電灯	—	260kWh	8,847円	12,320円	3,473円	39.3%
低圧電力	8kW	560kWh 夏季：196kWh その他季：364kWh	22,738円	30,219円	7,481円	32.9%

※低圧電力は、1年間のご使用量（夏季・その他季）を1か月当たりとし、力率90%で算定しております。

※現在および値上げ後のお支払い額は、消費税等相当額および2022年度の再生可能エネルギー発電促進賦課金を含みます。

※現在の支払い額には、2022年7月～9月の平均燃料価格に基づく燃料費調整単価(3.98円/kWh)を含みます。

※実施日以降、実際にお支払いいただく電気料金は、燃料費調整額および再生可能エネルギー発電促進賦課金により変動する場合がございます。

7. 規制部門の料金（高圧向け電気料金設定の考え方）

- 規制部門の高圧の主な契約メニューにおける料金単価は、以下のとおりです。
- 今回の値上げにあたっては、電力量料金単価に一律に同一の単価を上乗せしております。

【料金単価（託送料金変動分は含まない）】

			単価		値上げ額
			現行	改定	
業務用	基本料金		1,743.50円	1,743.50円	—
	電力量 料金	夏季	20.99円	33.88円	12.89円
		その他季	19.50円	32.39円	12.89円
高圧A	基本料金		1,617.00円	1,617.00円	—
	電力量 料金	夏季	19.06円	31.95円	12.89円
		その他季	17.74円	30.63円	12.89円
高圧B	基本料金単価		2,018.50円	2,018.50円	—
	電力量 料金	夏季	18.07円	30.96円	12.89円
		その他季	16.84円	29.73円	12.89円

※消費税等相当額を含みます。

※現行の電力量単価には、2022年7月～9月の平均燃料価格に基づく燃料費調整単価(3.84円/kWh)を含みます。

【参考】高圧の主なご契約メニューの値上げ影響

- 規制部門の高圧の主な契約メニューにおける値上げ影響額は、以下のとおりです。

【値上げ影響（託送料金変動分は含まない）】

		契約電力	1か月の ご使用量	お支払い額		値上げ額 (月額)	値上げ率
				現在 (月額)	値上げ後 (月額)		
500kW未満の お客さま	業務用電力	90kW	16,200kWh 夏季：4,860kWh その他季：11,340kWh	約51万円	約72万円	約21万円	40.7%
	高圧電力A	80kW	18,400kWh 夏季：4,970kWh その他季：13,430kWh	約51万円	約74万円	約23万円	46.8%
500kW以上の お客さま	業務用電力	700kW	150,500kWh 夏季：45,150kWh その他季：105,350kWh	約456万円	約650万円	約194万円	42.6%
	高圧電力B	800kW	240,000kWh 夏季：64,800kWh その他季：175,200kWh	約632万円	約941万円	約309万円	48.9%

※使用量は、1年間の使用量(夏季・その他季)を1か月当たりとしたものです。

※現在および値上げ後のお支払い額は、力率100%で算定しており、消費税等相当額および2022年度の再生可能エネルギー発電促進賦課金を含みます。

※現在の支払い額には、2022年7月～9月の平均燃料価格に基づく燃料費調整単価(3.84円/kWh)を含みます。

※実施日以降、実際に支払いいただく電気料金は、燃料費調整額および再生可能エネルギー発電促進賦課金により変動する場合がございます。

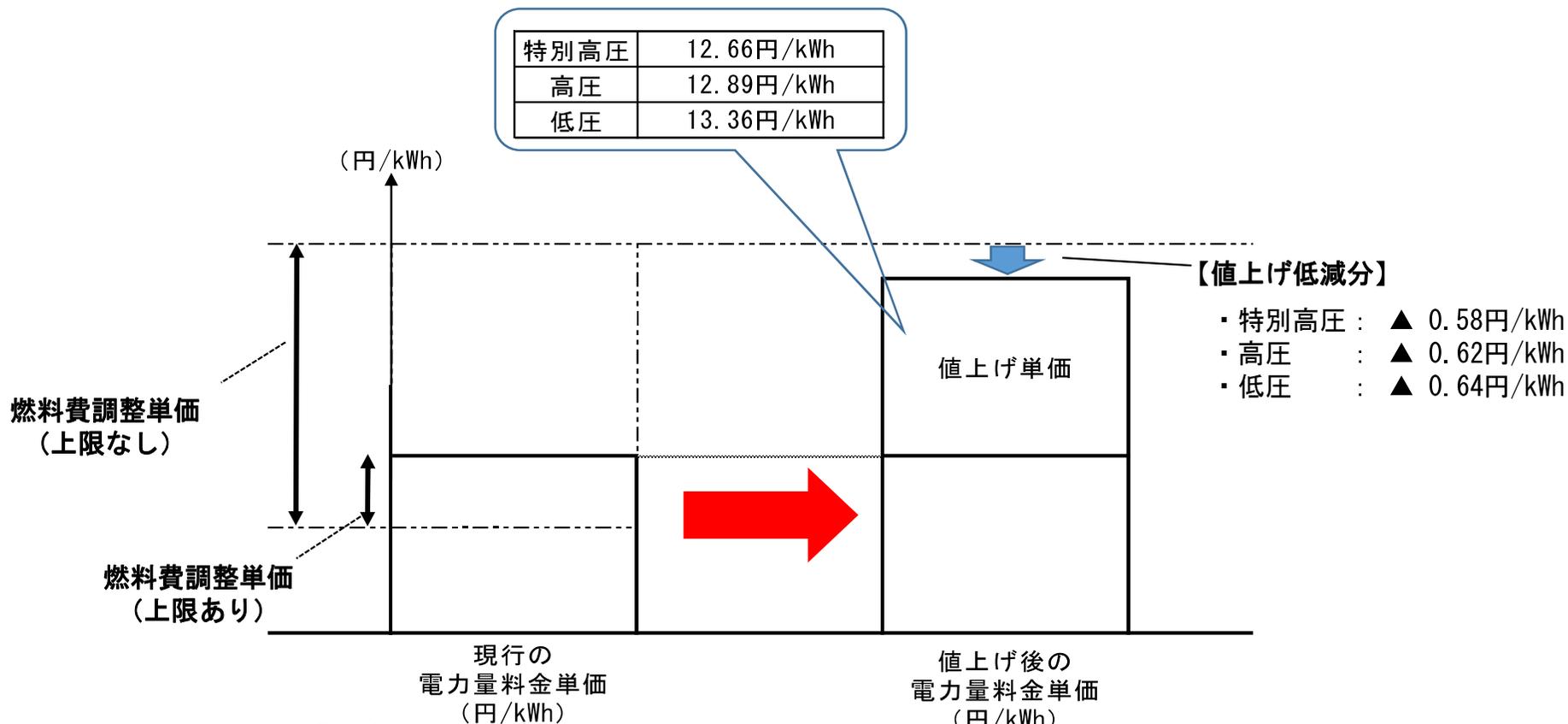
7. 規制部門の料金（規制部門に係る供給条件（約款規定）の主な変更について）

- 今回、制度変更への対応や業務効率化等の観点より、供給条件についても一部、変更させていただく予定となっております。
- 主な変更箇所は以下のとおりです。

項目	概要
託送供給に係る供給条件の明確化	✓ 託送供給にかかる供給条件等については当社が別に定める託送供給等約款の規定を参照する等、明確化することとしました。
離島ユニバーサルサービス調整の導入	✓ 従来、沖縄本島と離島を含む全体で算定していた燃料費調整について、「沖縄本島」と「離島（離島ユニバーサルサービス調整）」に区分して算定することとしました。
臨時電力における力率決定方法の変更	✓ 臨時電力（高圧500kW未満）の料金計算に使用する力率の決定方法を、協議から平均力率へ変更することとしました。
保証金利息の廃止	✓ 保証金をお預かりする場合には加算することとしている利息について、廃止することとしました。（現時点で適用事例はございません。）
共同住宅における従量電灯の特別措置の廃止	✓ 従来規定しておりました共同住宅における従量電灯の特別措置について、廃止することとしました。（現時点で適用事例はございません。）
再生可能エネルギー発電促進賦課金単価および燃料費調整単価等の事務所掲示の廃止	✓ 再生可能エネルギー発電促進賦課金単価等を掲載したポスターを弊社事務所に掲示しておりますが、廃止することとしました。

8. 自由化部門の料金（値上げの内容）

- 自由化部門のお客さまにつきましては、2023年4月1日より、値上げをお願いいたします。
- 自由化部門の料金について、規制部門の料金と同様、現行の電力量料金単価に以下の値上げ単価を一律に上乗せしております。
- 規制部門の料金が国の審査により変更となった場合は、自由化部門の料金についても、規制部門の料金で認可された原価に基づき、見直しをさせていただく予定です。



※消費税等相当額を含みます。
 ※各電圧の値上げ単価差は、送電ロスの差によるものです。
 ※現行の電力量料金単価には、2022年7月～9月の平均燃料価格に基づく燃料費調整単価を含みます。
 ※値上げ後の電力量料金単価は、燃料費調整により変動する場合がございます。

- 全ての自由料金メニューについて、燃調上限を2023年4月から廃止いたします。

※特別高圧および高圧の自由料金メニューの2023年4月からの燃調上限廃止については、2022年7月29日に公表済み。

※グッドバリュープラン、プレミアムバリュープラン、従量電灯plusのお客さまについて、2022年4月より燃調上限を設定する特別措置を実施しておりましたが、2023年3月をもって終了いたします。

- 低圧の下記対象メニューの供給条件についても一部、変更させていただく予定となっております。主な変更箇所は以下のとおりです。

【対象メニュー：時間帯別電灯、Eeらいふ、深夜電力等】

1. 検針票の投函廃止
毎月の電気のご使用量などは、当社ウェブサイトの「実績照会サービス」よりご確認ください。
2. 書面発行手数料の導入
紙の検針票の発行や振込払いをご希望される場合、書面発行手数料（税込220円）を毎月の電気料金に上乗せしてお支払いいただきます。
3. 制限中止割引の廃止
台風などの災害時に停電となった際の割引を廃止いたします。
(Eeらいふの場合、停電1日につき70円弱の割引)

※1~2については、お客さまへの影響の軽減のため、猶予期間を設ける予定です。

9. 新たな託送料金制度の反映

- 一般送配電事業者における必要な投資の確保とコスト効率化を両立させ、再生可能エネルギー主力化やレジリエンス強化等を図ることを目的とした新たな託送料金制度（レベニューキャップ制度）が2023年4月より導入されます。
- 今回お知らせする電気料金の値上げの他に、当社送配電部門における当該制度に伴う託送供給等約款の見直しを踏まえた、電気料金単価への反映について、2023年4月1日から予定しております。
- 具体的な料金単価は、当社送配電部門の新たな託送供給等約款の認可を踏まえ、改めてお知らせいたします。

<レベニューキャップ制度導入に伴う1kWhあたりの変動単価（見込み）※>

	1kWhあたりの 変動単価（見込み）
特別高圧	0.62円
高圧	1.16円
低圧	1.86円

※当社送配電部門にて算定された、改正前の一般送配電事業託送供給等約款料金算定規則に準じた参考値（税抜）です。

https://www.okiden.co.jp/shared/pdf/news_release/2022/220725.pdf

10. 値上げに係るお客さまへのご説明

- お客さまへは、値上げに至った背景、経営効率化の取り組み、値上げの内容等を新聞広告や当社ホームページにてお知らせする他、ご説明資料またはダイレクトメール等をお届けすることに加え、お電話やご訪問等により、丁寧にご説明してまいります。
- また、各種団体さまへのご説明や、日常業務におけるお客さまとの接点などを通じて、丁寧なご説明に努めてまいります。

<p>ご家庭などのお客さま (低圧)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ ホームページにおいて、詳細かつタイムリーな情報提供を行うとともに、お客さまご自身の料金値上げによる影響額をご試算いただけるツールをご準備いたします。 ■ ダイレクトメール等をお届けすることで、お客さまへもれなくお知らせいたします。また、新聞広告により広くお知らせいたします。
<p>法人のお客さま (特別高圧、高圧)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ ご説明資料を郵送のうえ、お電話やご訪問等を通じて、値上げに至った背景、経営効率化の取り組み、値上げの内容や値上げによる影響額等を丁寧にご説明してまいります。
<p>各種団体さま</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各種団体さまに、ご訪問等を通じて、丁寧にご説明してまいります。
<p>お問い合わせへの対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 値上げに関するお客さまからのご意見・ご質問等に対する専用窓口（電気料金値上げに関する専用ダイヤル）を設置し、お問い合わせに対して丁寧にお応えしてまいります。

【参考】お客さまのお役に立つ情報・お問い合わせ窓口のご案内

- ▶ 当社ホームページにおいて、電気を効率よくお使いいただくための節電・省エネの方法や、契約メニューの変更によるシミュレーション等、お客さまのお役に立つツールをご紹介します。

■節電・省エネに関するお役立ちツールのご紹介

- ①ご家庭向けエコアイデアとして、電化製品の上手な使い方についてご紹介しております。

<https://www.kaeru.tv/eco/idea.html>



- ②2022年度節電キャンペーン申込受付中です。
・受付期間：2022年10月28日～12月31日

<https://more-e.okiden.co.jp/event/detail/64>

- ①法人のお客さま向けに、省エネ手法についてご紹介しております。

<https://www.okiden.co.jp/business/e-waja/energy-saving/>

- ②高圧・特別高圧でご契約のお客さまに、「冬の節電 キャンペーン2022（高圧・特別高圧）」申込受付中です。

・受付期間：2022年11月16日～12月31日

<https://go.okiden.co.jp/ecocampaign202201>



■電気料金比較シミュレーションのご紹介

電気のご使用量を入力し、現在のご契約メニューとその他のご契約メニューとの料金を比較します。
電気料金単価表はこちらに掲載しております。
<https://www.okiden.co.jp/common/price/>

<料金比較結果>

各メニューにおける試算結果は、年間を通して比較することをおすすめしております。

	従量電灯 (比較元の契約)	グッドレビュー プラン	プレミアムレビュー プラン
電気料金	17,864円	17,551円	16,942円
差額	-	-313円	-922円

基本料金	402円	402円	10,590円
電力量料金合計	13,746円	13,434円	2,637円
燃料費調整額※	1,989円	1,989円	1,990円
割引	0円	0円	-
再エネ賦課金※	1,725円	1,725円	1,725円
詳細	詳細	詳細	詳細

[料金メニューの変更はこちら](#)

■お問い合わせ窓口

【沖縄電力ホームページ】 <https://www.okiden.co.jp/>

【電気料金値上げに関する専用ダイヤル】 0120-586-704

受付時間：月～金 8：30～17：00 <祝日, 振替休日, 慰霊の日, 旧盆（7/15）, 年末年始（12/29～1/3）を除く>

【沖縄電力ホームページ 二次元バーコード】

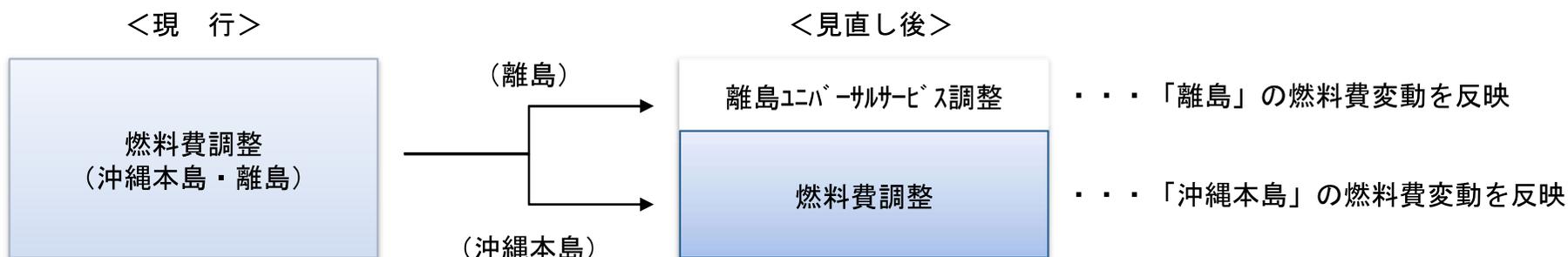


【参考】燃料費調整の見直し①

(1) 燃料費調整を沖縄本島と離島に区分

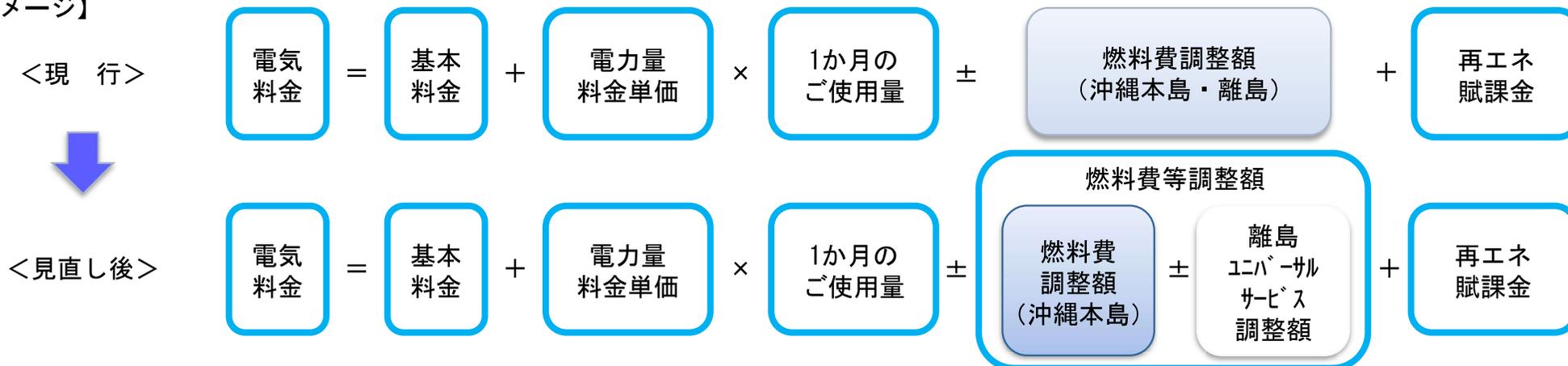
▶ これまで燃料費調整は、沖縄本島と離島※を含む全体で算定しておりましたが、今後は、2016年改正の経済産業省令に基づき「沖縄本島」と「離島（離島ユニバーサルサービス調整）」に区分して算定します。

※離島とは、本島系統に連系されていない島をいいます。



▶ 沖縄本島と離島の燃料費調整は、「燃料費等調整額」として合算して請求します。

【イメージ】



【参考】燃料費調整の見直し②

(2) 沖縄本島の燃料費調整算定諸元の見直し

- 沖縄本島の燃料費調整について、発電構成や燃料価格の見直しにあわせ基準燃料価格および基準単価を変更しております。
- 電源構成の変化に伴い火力発電における燃料消費数量が減少し、基準単価は現行よりも小さくなっております。
- なお、基準単価は平均燃料価格が1,000円/kℓ変動した場合の1kWh当たりの調整単価であり、価格の変動に伴う燃料費調整の調整幅は、現行より小さくなります。

		今回の申請	現行	差引（今回－現行）
基準燃料価格	円/kℓ	81,800	25,100	56,700
換算係数	α	0.0065	0.2410	▲ 0.2345
	β	0.1625	—	—
	γ	1.1167	1.1282	▲ 0.0115
基準単価（税抜・平均）	円/kWh	0.245	0.281	▲ 0.0360

※実際の基準単価は電圧により異なります。

申請単価⇒低圧：0.276円/kWh、高圧：0.266円/kWh、特別高圧：0.261円/kWh

①基準燃料価格（81,800円/kℓ）

●基準燃料価格とは、料金設定の前提である原油・LNG・石炭の燃料価格（2022年7月～9月の貿易統計価格）の加重平均値で、燃料費調整における価格変動の基準となるものです。

●具体的には、各燃料の熱量構成比に原油換算係数を加味した係数（ α 、 β 、 γ ）を算定し、以下のとおり算定します。

$$[算定式] \quad \begin{array}{ccccccc} 97,466\text{円/kℓ} & \times & 0.0065 & + & 142,803\text{円/t} & \times & 0.1625 & + & 51,875\text{円/t} & \times & 1.1167 & = & 81,800\text{円/kℓ} \\ \text{原油価格} & & \alpha & & \text{LNG価格} & & \beta & & \text{石炭価格} & & \gamma & & \end{array}$$

②基準単価（0.245円/kWh）

●基準単価は、平均燃料価格が1,000円/kℓ変動した場合の電力量1kWhあたりの変動額です。

●具体的には、当社の火力発電の燃料消費数量（原油換算kℓ）をもとに、以下のとおり算定します。

$$[算定式] \quad \begin{array}{ccccccc} 4,440\text{千kℓ} & \times & 1,000\text{円/kℓ} & \div & 18,125\text{百万kWh} & = & 0.245\text{円/kWh} \\ \text{燃料消費数量（原油換算）} & & & & \text{総販売電力量} & & \text{基準単価} \end{array}$$

【参考】燃料費調整の見直し③

③平均燃料価格

- 平均燃料価格とは、毎月の原油・LNG・石炭の貿易統計価格の加重平均値（前述の α 、 β 、 γ で加重）であり、毎月変動いたします。
- 具体的には、原油・LNG・石炭の実績貿易統計価格（3～5か月前の平均）に α 、 β 、 γ をそれぞれ乗じて合計し算定します。

④毎月の燃料費調整

- 毎月変動する平均燃料価格と基準燃料価格との差に基準単価（税込）を乗じて燃料費調整単価を算出します。（低圧で供給を受けるお客さまの場合の算定例）

$$[\text{算定式}] \quad \left(\frac{\text{〇〇〇円/kl} - \text{81,800円/kl}}{\text{毎月の平均燃料価格}} \right) \div \frac{\text{1,000円/kl}}{\text{基準燃料価格}} \times \frac{\text{0.276円/kWh}}{\text{基準単価}} = \text{毎月の燃料費調整単価}$$

- この燃料費調整単価をお客さまのご使用量に乗じた金額が毎月の燃料費調整額になります。（参考）換算係数（ α 、 β 、 γ ）の算定方法

	燃料構成比 a	原油換算係数 b	換算係数 c = a × b	
原油	0.0065	1.0000	0.0065	・・・ α
LNG	0.2323	0.6995	0.1625	・・・ β
石炭	0.7612	1.4670	1.1167	・・・ γ
合計	1.0000	—	—	

※原油換算係数 LNG：1ℓあたりの原油発熱量（38.3MJ）÷ 1kgあたりのLNG発熱量（54.7MJ）
石炭：1ℓあたりの原油発熱量（38.3MJ）÷ 1kgあたりの石炭発熱量（26.1MJ）

(3) 離島ユニバーサルサービス調整の算定諸元

- 離島ユニバーサルサービス調整の離島基準燃料価格と離島基準単価は、次のとおりです。

離島基準燃料価格	離島基準単価（税込）
42,600円/kl	0.023円/kWh

※離島基準燃料価格とは、離島ユニバーサルサービス調整における原油価格変動の基準値です。
※離島基準単価は、離島平均燃料価格が1,000円/kl変動した場合の1kWhあたりの調整単価です。
※定額電灯等についても、料金プランに応じた離島基準単価を設定しています。

経営効率化の取り組みについて

2022年11月
沖縄電力株式会社

I. これまでの経営効率化の取り組み	・・・ P 4
1. 効率的な設備投資	・・・ P 5
2. 設備の運用および保全の効率化	・・・ P 6
3. 燃料の安定調達と燃料費の低減	・・・ P 7
4. 業務運営の効率化	・・・ P 10
II. 今後の経営効率化の取り組み	・・・ P 20
1. 人件費	・・・ P 21
2. 燃料費	・・・ P 22
3. 修繕費	・・・ P 24
4. 減価償却費	・・・ P 25
5. その他経費	・・・ P 26

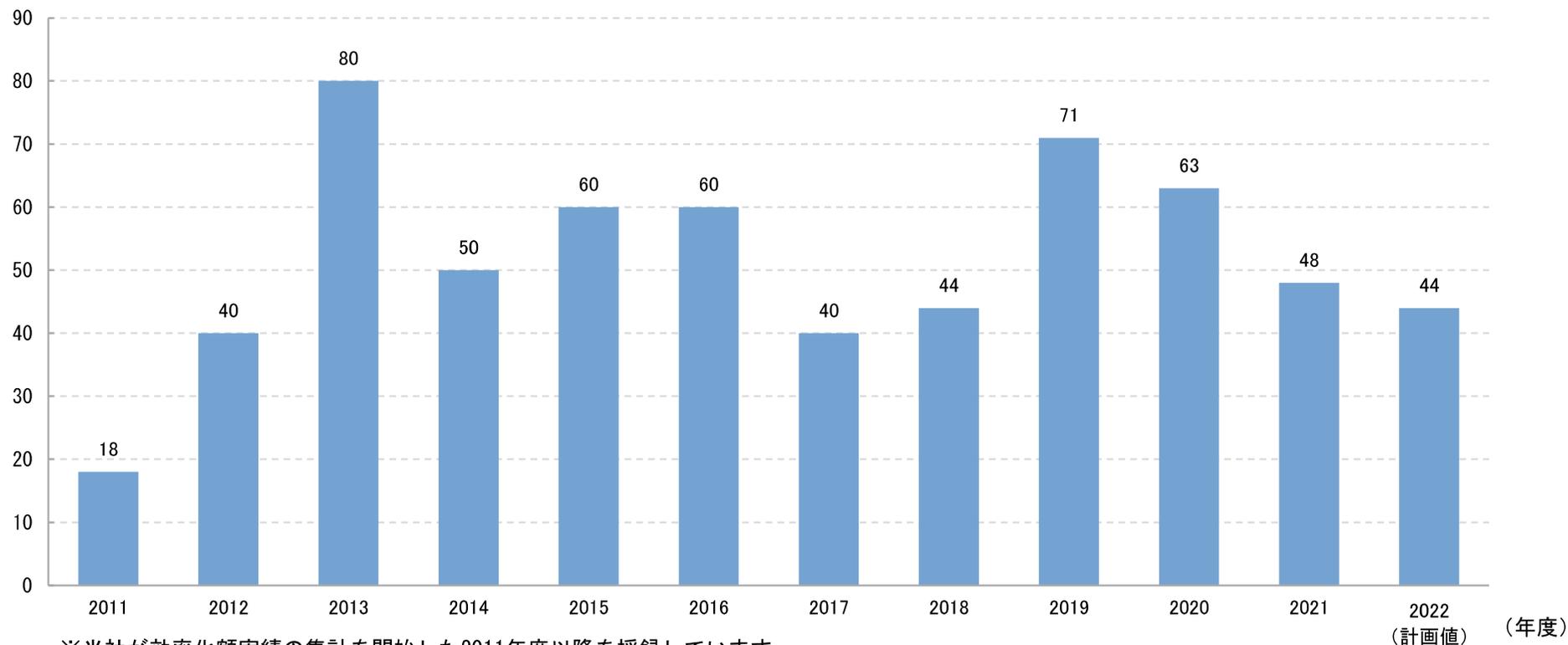
I. これまでの経営効率化の取り組み

I. これまでの経営効率化の取り組み

➤ 当社は、低廉な電気を安定的にお客さまへお届けすることを通して、地域社会の成長発展を支えることを基本的な使命とし、小売全面自由化により競争が激化する中、不断の経営効率化によって電気料金の低減に努めてきました。

【当社の経営効率化額の推移（2011年度～2022年度 全社合計）】

(億円)



※当社が効率化額実績の集計を開始した2011年度以降を採録しています。

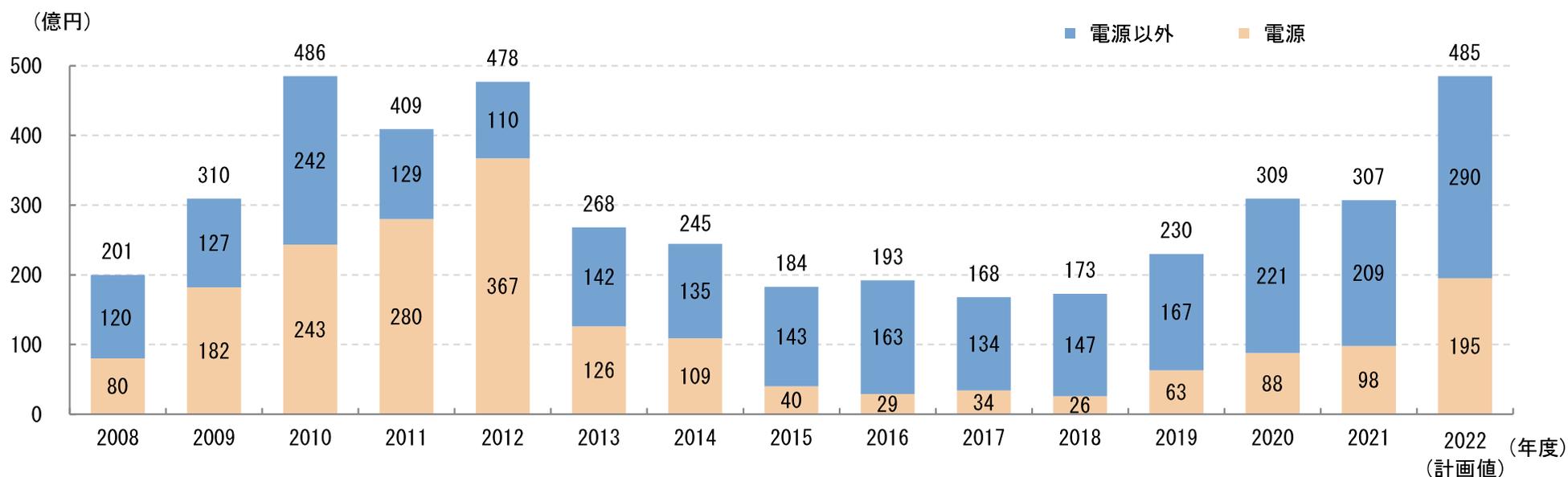
1. 効率的な設備投資

- ▶ 当社は、安定供給の確保を前提に、経済性・環境対策の同時達成を図りながら、自然災害に強い設備形成に努めてきました。
- ▶ 設備の設計、契約、施工の各段階におけるコスト低減に努めると同時に、収益性を評価した設備更新などの戦略的な設備投資によりトータルコストの低減を図ってきました。

【主要施策】

- ◆ 設計・仕様・工法の精査や発注方法の見直しによる工事費の低減。
- ◆ 除却・取替工事からの資材流用等による工事費の低減。
- ◆ 自然災害への備えに十分留意した効率的な設備の構築。

【当社の設備投資額の推移（2008年度～2022年度 全社合計）】



2. 設備の運用および保全の効率化

- 設備の運用および保全については、安定供給の確保を前提にコスト低減を推進し効率化に努めてきました。
- 合理的な補修方法を検討し、点検周期、数量、単価、発注方法の見直し等の効率的な運用に取り組んでいます。
- また、低灰分炭である亜瀝青炭の継続利用による石炭灰発生量の抑制および土木分野への活用等による石炭灰の有効活用に努めるなど、環境負荷の軽減を図ってきました。

【効率化の主な取り組み内容（発電設備）】 ※2009～2021年度までの取り組みをまとめて記載しております。

項目	取り組み内容	効率化額
設備投資・保全	設計・仕様・工法・発注方法の見直しの工事費低減	2.6億円
	定期点検内容を精査し工期短縮（修繕コスト低減）	10.9億円
	点検周期、設計・数量・単価等精査によるコスト低減	0.9億円
	既存設備の延命化・除却設備の有効活用によるコスト削減	0.3億円
運用	石炭灰発生抑制や石炭灰有効利用による灰捨場の延命化	4.6億円
	吉の浦火力BOG圧縮機運用の改善	0.5億円

3. 燃料の安定調達と燃料費の低減

- ▶ 当社はこれまで燃料の安定調達を基本としつつ、燃料調達における経済性の追求に努めてきました。
- ▶ 年間契約の競争見積による重油調達コストの低減、トータルコストが安価な亜歴青炭の継続利用等、燃料費の低減に努めました。

【効率化の主な取り組み内容】 ※2009～2021年度までの取り組みをまとめて記載しております。

項目	取り組み内容	効率化額
多様化 調達の 先方法 の	価格安価見込み時機を捉えての燃料スポット購入による燃料費の低減	3億円
	年間契約の競争見積	2.3億円
	定期購入（海外含む）の調達ソース分散（安定調達）	0.9億円
契約 見直し 内容 の	石炭輸送契約の見直し ※石炭代金精算手続き早期化による金利負担の低減や石炭輸送に係る 保険料率見直しによる保険料の低減 など	0.4億円
	石炭専用船（津梁丸）運用による輸送費の低減	0.6億円
効運 率用 化	発電単価を考慮したLNG・石炭機の運用効率化等による燃料費低減	28.1億円

【参考】 発電部門と送配電部門（離島を含む）が連携した効率化の取り組み

取り組み内容	効率化額
AFC運用シフト（石油→LNG）による燃料費低減	26.2億円
石川火力発電所の離島燃料油配送拠点化（燃料費低減）	9.5億円
渡嘉敷海底ケーブル敷設（本島連系）による燃料費の低減	1.4億円

《事例》石炭専用船 しんりょうまる 2代目津梁丸の運用

- 当社は具志川火力発電所および金武火力発電所で使用する石炭の輸送体制強化のため、大型石炭専用船「津梁丸」（9万トン級）を運用しています。
- 2003年に初代石炭専用船「津梁丸」（9万トン級）を導入し、これまで15年間にわたり、石炭の安定輸送を実現してきました。2018年に運用開始した2代目となる本船は、初代より船名「津梁丸」を受け継いで、当社の石炭輸送体制の中核を担っております。
- 本船は一般的なパナマックス船型と比べて積載量を増加させ、輸送効率を向上させた「幅広・浅喫水船」※です。
 - ※水深制限のある港への大量輸送を行なうため、通常の7万トン積パナマックス型ばら積み船より幅を広げた喫水の浅い船型。
- 今後もオーストラリア、インドネシアなどの石炭産出国から、安定的かつ経済的な石炭輸送に努め、当社の使命である電力の安定供給に繋げていきます。

《2代目津梁丸》



＜本船概要＞

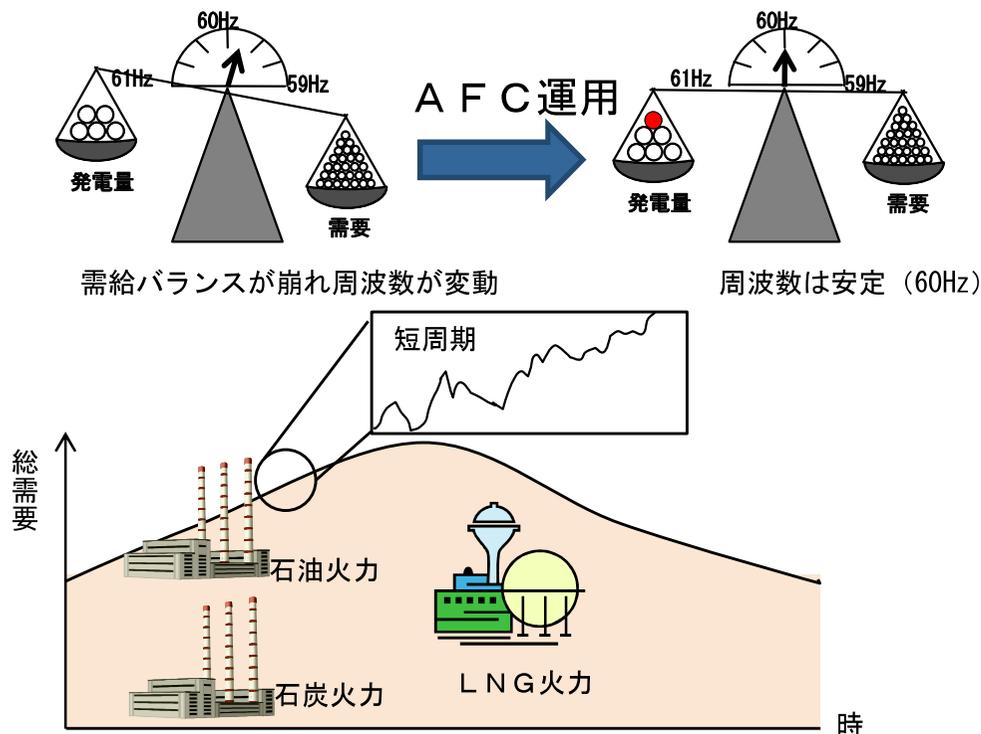
1. 全長：234.99m
2. 全幅：43.00m
3. 夏期満載喫水：12.882m
4. 載貨重量トン数：92,049 t

【参考】 吉の浦火力発電所のAFC運用

▶ 当社初のLNG火力である吉の浦火力発電所が運転開始したことにより、これまで石油火力が担ってきたAFC運用を、吉の浦火力にて行うことにより燃料費の低減を図っております。

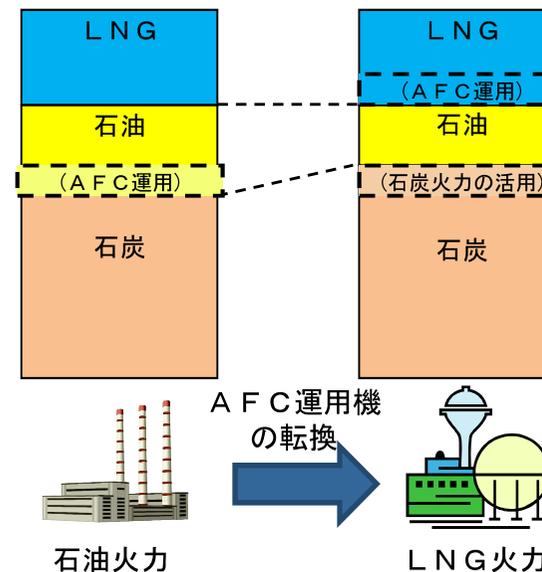
- ・ 周波数は、時々刻々と変化する電気の需要量（消費量）と供給量（発電量）とのバランスを一定に保つことで、その品質を維持しておりますが、このバランスを常に一定に保つためには、10数秒から数分程度の周期（短周期）で変化する電気の需要量に合わせて、発電機の出力を調整する必要があります。
- ・ このような調整を自動で行なう手法をAFC（Automatic Frequency Control 自動周波数制御）運用といいます。

《 吉の浦火力AFC運用のイメージ》



【燃料構成割合のイメージ】

AFC運用をLNG火力で行った結果、減少した石油火力の代替として、より安価な石炭火力を活用。



4. 業務運営の効率化

- 当社はこれまで業務の集中化、組織・事業所の統廃合等により人材の効果的な活用に取り組むとともに、業務プロセスの見直しやDX（デジタル・トランスフォーメーション）を推進する等、業務運営の効率化に努めてきました。
- また資機材の調達に際し、共同調達やリバースオークション、一括発注を積極的に活用し、コスト低減に取り組んできました。

【効率化の主な取り組み内容】 ※2009～2021年度までの取り組みをまとめて記載しております。

項目	取り組み内容	効率化額
業務運営の効率化	業務の集中化・委託化	—
	組織・事業所の統廃合	—
	RPA活用による業務効率化・生産性向上	1億円
	DX推進に向けた取り組み（おきでんDX）	0.3億円
	ワークスタイル改革（紙使用量削減、会議運営業務効率化）	0.1億円
	吉の浦火力発電所へのファイナンスリース導入（初期負担軽減）	16億円 （初期費用の低減額）
	発電所へのIoT基盤導入	—
	リバースオークション（競り下げ方式）、共同調達、一括発注の積極的活用	0.9億円

《事例》業務の集中化・委託化

▶ 当社は2009年以降、支店・営業所単位で行ってきた業務を集中化し、また業務の一部を委託化することにより人材の有効活用と業務の効率化に努めてきました。

取り組み内容	年度	概要
支店営業所の営業開発部門の集中化	2009	各支店営業所における営業開発部門を集約し、法人・家庭両分野に共通して対応できる横断的な体制とする。
料金業務の集中化・委託化	2021 2022	支店・営業所における料金事務処理業務を集約し、同業務を委託化
ネットワーク受付センター設置	2022	支店・営業所における供給・購入受付業務を集中化
支店総務業務の集中化		支店・営業所における総務関連業務を集中化
検針・異動業務の集中化		支店・営業所における検針・異動業務のうち現場対応を伴わない受付業務等を集中化
配電業務の集中化・委託化		支店・営業所における配電関連の共通業務を集約するとともに、配電設備の設計業務を委託化

▶ 前項の業務集中化・委託化に加えて、組織・事業所の統廃合を進めることで業務運営の効率化と体制強化を図ってきました。

取り組み内容	年度	概要
沖縄本島支店組織の再編	2013	沖縄本島支店内組織を3グループ制から2グループ制とし、限られた要員の中で効率的な業務運営を図る。
総務部組織の再編	2015	総務部組織を柔軟な業務運営が可能となるグループ制組織へ再編し、効率化を図る（8課室を7グループへ再編）。
糸満営業所の統合		糸満営業所を那覇支店へ統合し、効率的な業務運営体制の構築を図る。
渡嘉敷電業所の廃止	2016	沖縄本島系統と渡嘉敷系統を結ぶ渡嘉敷海底ケーブルの運用開始に伴い、渡嘉敷電業所組織を廃止し、関連部門へ業務を移管。
資材部組織の再編	2017	資材部内の購買課と資材課を統合し、共通業務を集約するとともに、業務分担の柔軟性向上や業務負荷の平準化を図る。
経理部組織の再編		予算課と財務課を統合し、予算管理と財務に関する情報の共有を図り、業務運営の効率化と高度化の両立を図る。
電力流通部組織の再編	2022	電力流通部の中央電力所組織を関連するグループへ統合・再編し、効率化と体制強化を図る（2所11グループを1所9グループへ再編）。
沖縄本島支店の再編		本島各支店を2グループ制から1グループ制とし、4支店1営業所を3支店に再編することで、効率化と体制強化を図る。

《事例》DX推進に向けた取り組み 『おきでんDX』①

➤ おきでんDXとは、人財とデジタル技術等を活用したビジネス刷新です。『攻めの効率化』を積極的に行いながら、『更なる安定供給』に努め、『トップラインの拡大』につなげる取り組みを通じてステークホルダーに新たな価値を創出してまいります。

 <p>Convert (デジタル化) 「まずやってみる・変えてみる」 身近な業務のデジタル化推進 DXの推進、業務プロセスの見直しにより、コスト構造の転換、業務の高度化、更なる効率化を目指す</p>
 <p>Optimize (最適化) 「つなげる・つながる」 ビジネスモデルのデジタル化・連携強化 サプライチェーン全体を俯瞰した、グループ内外のビジネス連携強化、更なる最適化を目指す</p>
 <p>Make (価値創造) 「価値を創る」 新たな価値や新ビジネスの創造・競争力強化 「おきでん.COM」の考え方のもと、新たな価値の創造、競争力の強化を目指す</p>

場所や手段を択ばない働き方の実現
生産性向上・価値創出・トップライン拡大



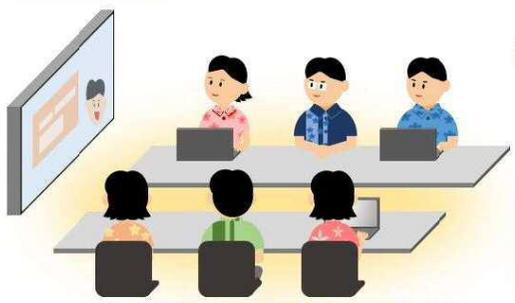
ワークスタイル高度化 (フリーアドレス等)



顧客接点高度化・サービス向上



現場業務遠隔化・高度化



ビジネス・コミュニケーション高度化



業務プロセス電子化
ペーパーレス化



業務・教育・
人事・労務等の高度化



コミュニケーション・
エンゲージメント向上



業務のボーダレス化

《事例》DX推進に向けた取り組み 『おきでんDX』②

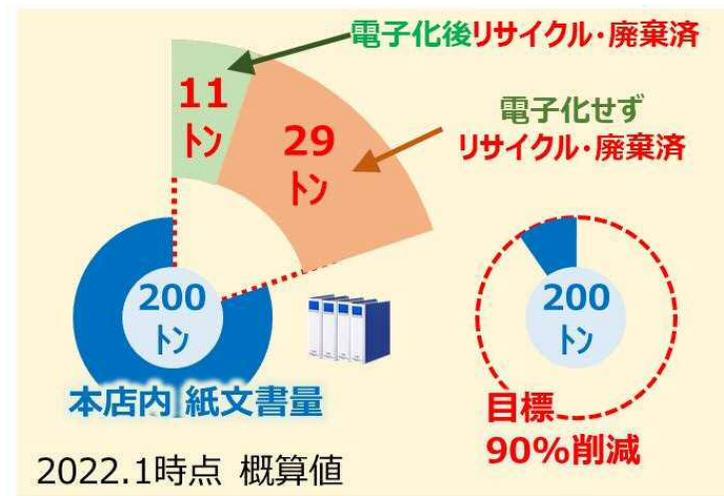
➤ 稟議手続きの電子化、その他の紙文書の電子化・廃棄の推進により、業務効率化に加え、各種コストや環境負荷の低減につながりました。



稟議電子化による効率化（手続き・配送・滞留時間等）



紙・押印から 電子決裁へ



紙文書の電子化・廃棄（デジタルファーストPJ実績）

紙文書(200トン)保管コスト：約800万円/年

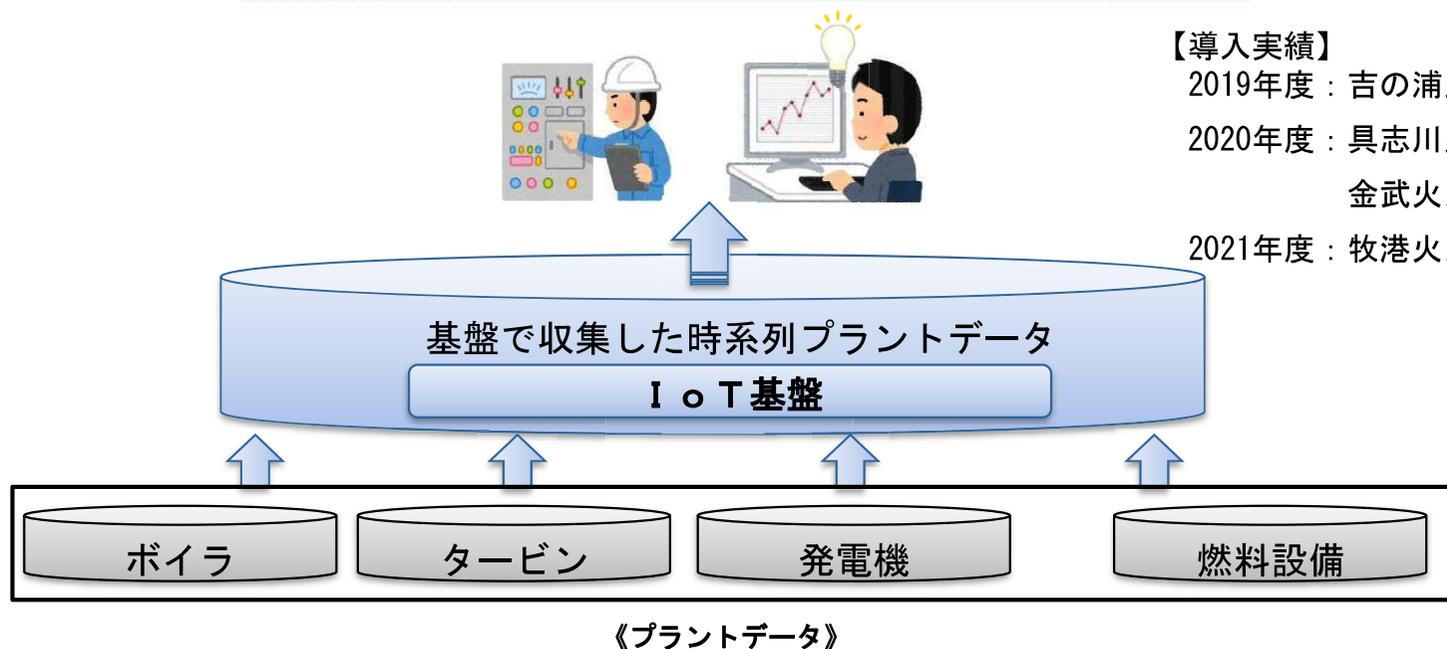
用紙購入実績：約1千万円/年

※CO2換算：約27トン/年

- ▶ 発電設備の運転データを長期保存し、一元的な管理により、運転状態の可視化やデータ分析などを支援するIOT基盤を導入しました。収集したデータについては、今後さまざまな効率化施策に活用していく予定です。

《IOT基盤の活用による高度な運転管理や業務効率化》

- ・ 異常予兆を早期発見
- ・ 最適な運転管理を行い、プラント効率の改善
- ・ 点検保守や設備更新の周期・時期の最適化 等



【導入実績】

2019年度：吉の浦火力発電所（LNG）

2020年度：具志川火力発電所（石炭）

金武火力発電所（石炭）

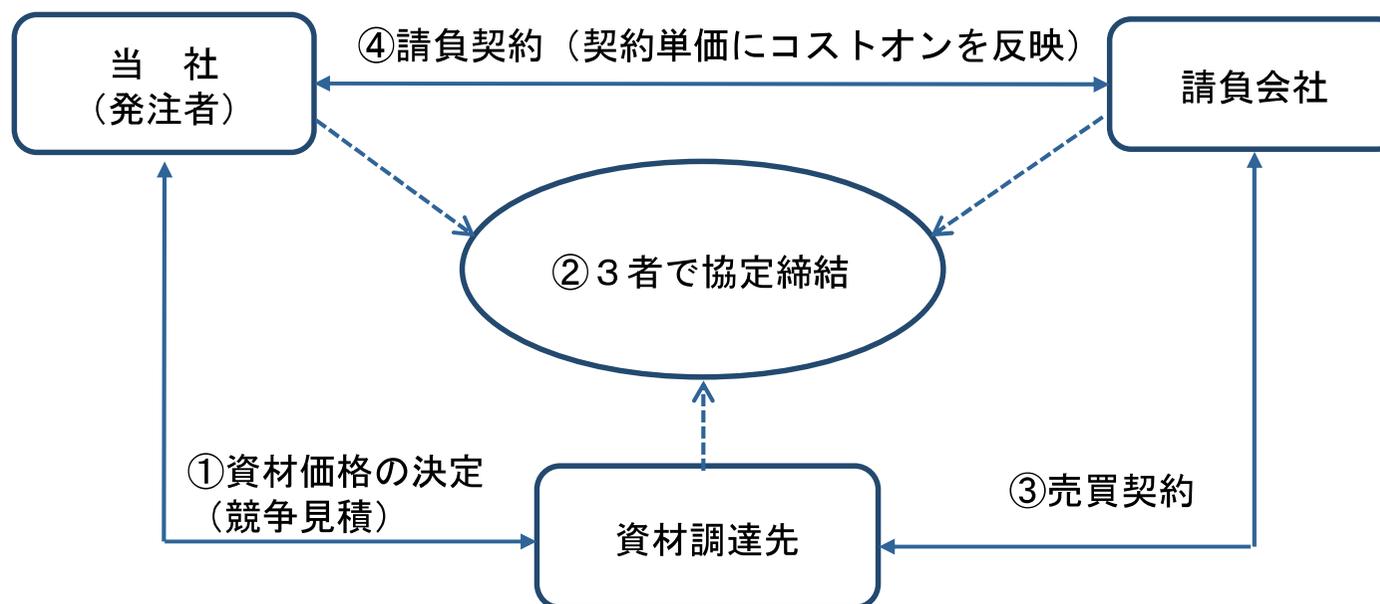
2021年度：牧港火力発電所（石油）

- 資機材の調達に際し、共同調達やリバースオークション、一括発注を積極的に活用し、コスト低減に取り組んできました。

項目	取り組み内容	これまでの主な適用品目
共同調達	他電力との共同調達に参加し、スケールメリットを活かした調達コストの低減を図っております。	蓄電池 電線類 (送電)
リバースオークション	汎用品の調達において、リバースオークション（競り下げ方式）の活用による調達コストの低減を図っております。	パソコン ソフトウェア
一括発注	仕様が同等の件名について、まとめて発注することにより、スケールメリットを活かした調達コストの低減を図っております。	ケーブル 電線類 (配電)

➤ 請負会社が調達する資材（業者持ち資材）の一部について、当社が競争見積りにより契約先および資材価格を決定することで、競争原理を働かせ、工事資材の調達コスト低減を図っております。

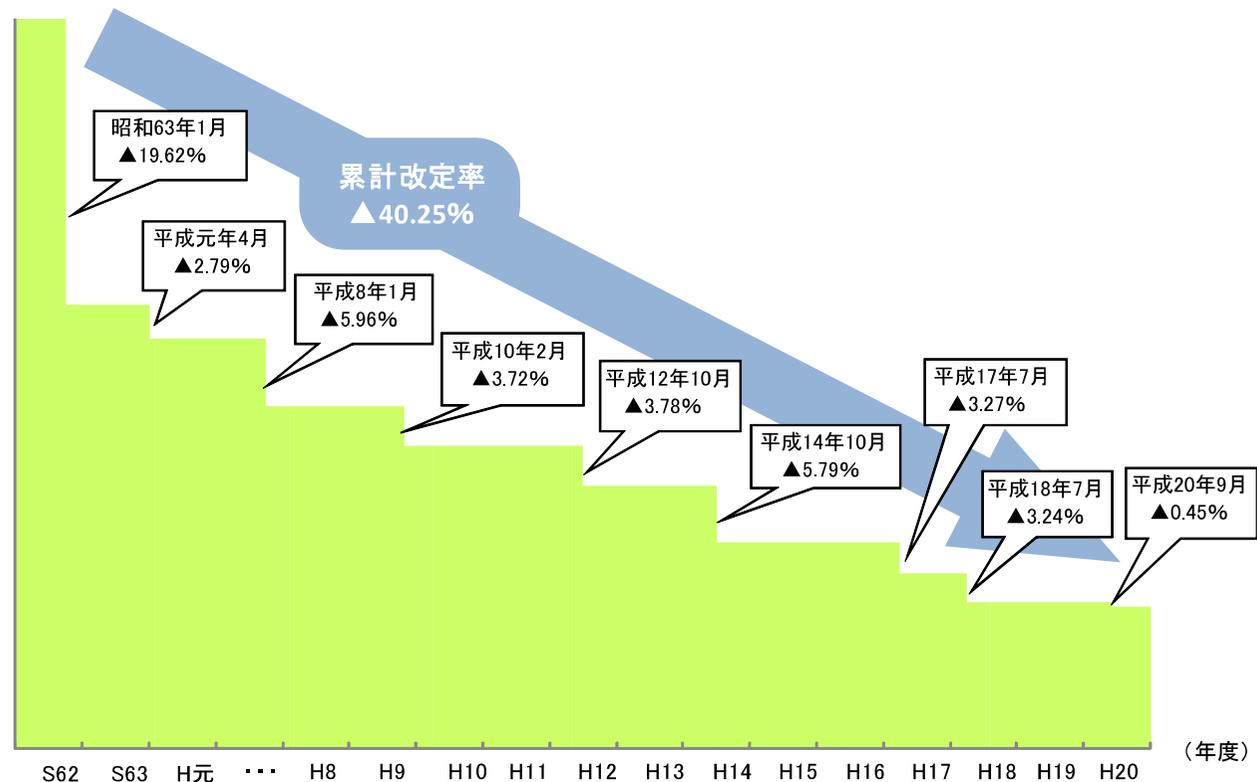
- ① 請負業者が調達する資材（業者持ち資材※）の一部について、当社が競争見積りにより契約先および資材価格を決定する。 ※電柱に装着する金具等
- ② 当社、資材調達先および請負会社の3者間で価格等について協定を締結
- ③ 請負会社と資材調達先で売買契約を締結
- ④ 当社と請負業者との請負契約単価に反映



【参考】電気料金の推移

- これまで当社は、経営効率化の成果を最大限に反映し、昭和63年以降、12回（暫定3回※を含む）にわたる電気料金の見直しを行ってまいりました。

【電気料金改定率の推移】



※暫定引き下げ 平成5年11月：▲0.52円/kWh、平成6年10月：▲0.52円/kWh、平成7年7月：▲0.56円/kWh

Ⅱ. 今後の経営効率化の取り組み

Ⅱ. 今後の経営効率化の取り組み

- ▶ 今回、電気料金の値上げ申請を行うにあたっては、緊急経営対策委員会での検討内容も踏まえ、これまで以上の経営効率化に取り組み、お客さまのご負担の軽減を目指していきます。
- ▶ 今回の料金原価の算定期間である2023年度から2025年度において、人件費、燃料費、修繕費、減価償却費、その他経費について年平均約136億円の経営効率化を織り込んでいます。

【効率化反映額の内訳】

項目	2023～2025平均	取り組み内容
人件費	▲ 21億円	・みなし小売電気事業者特定小売供給約款料金審査要領等を踏まえた役員給与・社員給与水準の引き下げ 等
燃料費	▲ 97億円	・調達方法、調達先の多様化による燃料費の低減 ・発電単価を考慮したLNG・石炭機の運用効率化等による燃料費の低減等
修繕費	▲ 7億円	・点検周期、設計・数量・単価等の精査によるコスト低減 等
減価償却費	▲ 1億円	・設計・仕様・工法の精査、発注方法の見直し
その他経費	▲ 10億円	・支出項目の精査・厳選や契約内容の見直し等による普及開発関係費、委託費、諸費、賃借料の削減 等
合計	▲ 136億円	

➤ 人件費については、国家公務員や他産業・他公益企業の水準を参考として、役員給与、給料手当、厚生費等の削減を原価に織り込み、人件費全般にわたり効率化に取り組んでいきます。

(単位：百万円)

項目	取り組み内容	2023	2024	2025	3ヶ年平均
役員給与の引き下げ	・社内役員給与をメルクマール水準（国家公務員指定職の年収概算）まで引き下げ	▲ 111	▲ 111	▲ 111	▲ 111
給料手当等の引き下げ	・社員年収をメルクマール水準（全産業の平均値、他公益企業の平均値等を基に算定した年収水準）まで引き下げ	▲ 1,344	▲ 1,190	▲ 1,001	▲ 1,178
雑給の削減	・顧問・相談役給与の不算入 ・雑給人員（パートタイマー・嘱託）の抑制	▲ 360	▲ 351	▲ 340	▲ 350
その他	・健康保険料の会社負担率を他公益企業の水準まで引き下げ ・年金資産運用の見直し・シンボルスポーツ関連費用の不算入 等	▲ 327	▲ 333	▲ 616	▲ 425
合 計		▲ 2,142	▲ 1,985	▲ 2,068	▲ 2,065

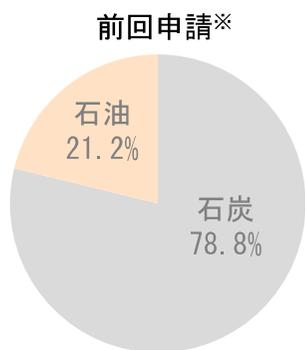
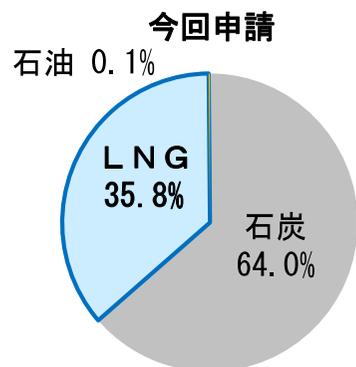
- ウクライナ情勢による燃料価格の高騰により、燃料価格の動向は極めて不透明な状況にあります。
- そのような厳しい状況においても、当社は引き続き燃料の安定調達を基本としつつ、トータルコストが安価な亜瀝青炭の継続利用、石炭機へのIoT基盤活用による発電効率改善により燃料費の低減に努めてまいります。
- また、バランスのとれた電源構成を目指すベストミックス（最適電源構成）の観点から、LNG（液化天然ガス）を燃料とする吉の浦火力発電所の運開により、電源が多様化し、エネルギーセキュリティの向上が実現できております。
- LNGコンバインドサイクル発電は石炭火力と比べて発電効率が高いため、今般の燃料価格高騰局面では石炭の割合が高い燃料構成であった場合と比べて燃料費の抑制に繋がっております。

（単位：百万円）

項目	取り組み内容	2023	2024	2025	3ヶ年平均
亜瀝青炭の継続利用	・ トータルコストが安価な亜瀝青炭の利用拡大	▲ 154	▲ 129	▲ 132	▲ 138
発電機の効率的運用	・ 石炭機へのIoT基盤活用による発電効率改善 ・ 補機運用の合理化による運転コスト削減	▲ 217	▲ 217	▲ 217	▲ 217
電源の多様化	・ 吉の浦火力（LNG）運開による発電効率の向上	▲4,790	▲11,267	▲11,562	▲9,206
その他	・ 石炭専用船の運用による輸送費の低減 ・ 石炭代金精算手続き早期化による金利負担の低減 や石炭輸送に係る保険料率見直しによる保険料の低減 など	▲ 117	▲ 111	▲ 114	▲ 114
合 計		▲ 5,277	▲11,724	▲12,024	▲9,675

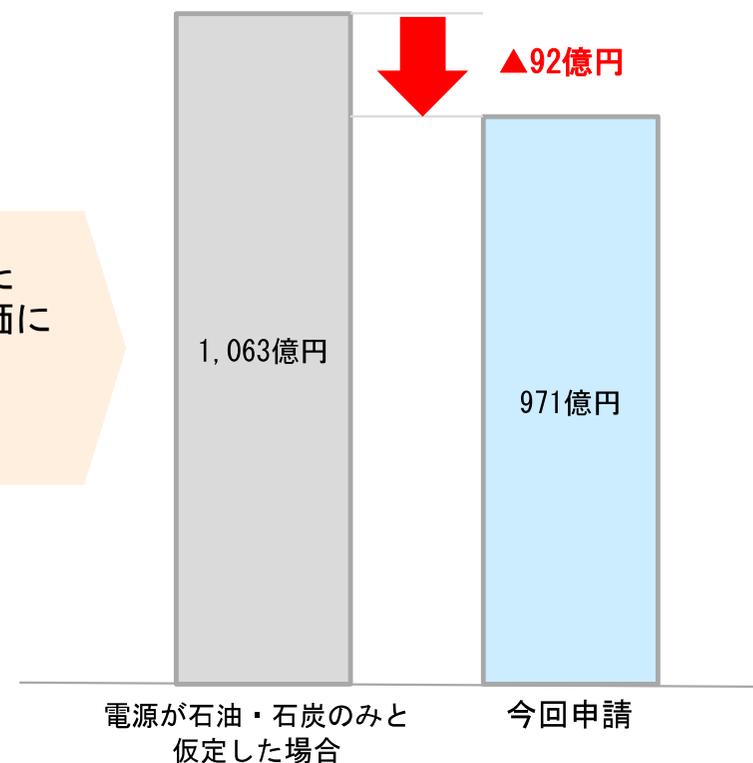
- 2012年にLNGを燃料とする吉の浦火力が運開したことにより、減価償却費等の増加がありましたが、効率化により電気料金の上昇抑制に努めてまいりました。
- 今回の申請による自社の燃料別発電電力量割合は石油火力：0.1%、石炭火力：64.0%、LNG火力：35.8%となっております。
- 吉の浦火力が運開し、電源を多様化したことにより、電源構成が石炭と石油のみであった場合と比べて、今般の燃料価格高騰局面では92億円（3ヶ年平均）の燃料費の抑制を原価に織り込むことができ、価格変動リスクの分散化に繋がっております。

＜自社発電電力量割合＞



※離島および電源持替相当分を含む

＜燃料費（3ヶ年平均）＞



LNG火力が運開し、電源を多様化したことにより、92億円の燃料費抑制を原価に織り込み
(価格変動リスクの分散化)

- 安定供給の確保を前提に徹底したコスト低減を推進し、設備の効率的運用および保全の効率化に努めております。
- 安定供給とコスト低減の両立に向けて、合理的な補修方法を検討し、点検周期、数量、単価、発注方法の見直し等の効率的な運用に努め、修繕費を低減してまいります。

(単位：百万円)

項目	取り組み内容	2023	2024	2025	3ヶ年平均
点検周期、数量、単価、発注方法の見直し	・ 安定供給を前提に、設備の劣化診断の結果等を踏まえた修繕工事の抑制、点検周期の延伸化	▲ 292	▲ 1,398	▲ 272	▲ 654

4. 減価償却費

- 安定供給の確保を前提に、経済性・環境対策の同時達成を図りながら、自然災害に強い設備形成に努めております。
- 設計、仕様、工法の精査、発注方法の見直しによる工事費の低減を図ってまいります。

(単位：百万円)

項目	取り組み内容	2023	2024	2025	3ヶ年平均
設計、仕様、工法の精査、発注方法の見直し	・ 安定供給を前提に、工事内容、実施時期等の見直し	▲ 36	▲ 45	▲ 83	▲ 55
	・ 仕様の見直し、調達価格等の低減	▲ 34	▲ 44	▲ 44	▲ 41
合 計		▲ 69	▲ 89	▲ 128	▲ 95

5. その他経費

- ▶ その他経費については、委託費、諸費、賃借費などを中心に、支出項目を精査・厳選し、削減に取り組んでいきます。
- ▶ また、社内外業務のデジタル化により、「おきでんDX」を強力に推進することで「攻めの効率化」を加速し、その他経費の削減につなげていきます。

(単位：百万円)

項目	取り組み内容	2023	2024	2025	3ヶ年平均
普及開発関係費の削減	・販売拡大活動やイメージ広告等の普及開発関係費の削減	▲ 532	▲ 533	▲ 535	▲ 534
研究費の削減	・販売関連等に係る研究費の削減	▲ 32	▲ 47	▲ 48	▲ 42
委託費の削減	・契約内容の見直し	▲ 270	▲ 270	▲ 269	▲ 270
諸費の削減	・業務用携帯電話の料金低減 ・オンライン会議システムの統合 ・寄付金、団体費等の諸費の削減	▲ 112	▲ 110	▲ 110	▲ 111
賃借料の削減	・支店・支社ビルの賃借料削減 ・複合機等のリース契約の見直し	▲ 39	▲ 39	▲ 38	▲ 39
その他	・電子化に伴う紙使用量の削減 等	▲ 3	▲ 3	▲ 3	▲ 3
合 計		▲ 988	▲ 1,002	▲ 1,003	▲ 997